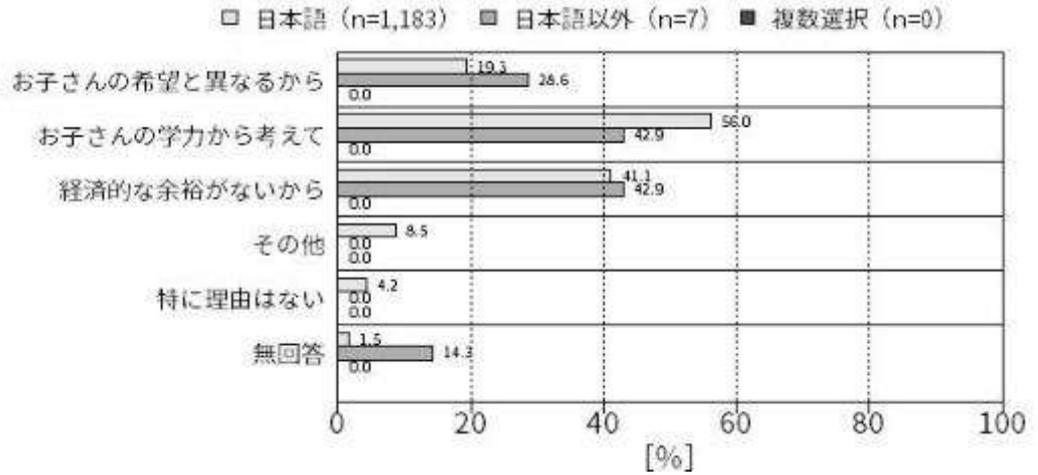


日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由  
 (保護者票 問2 × 保護者票 問17)

<大阪市24区>



<大阪市生野区>

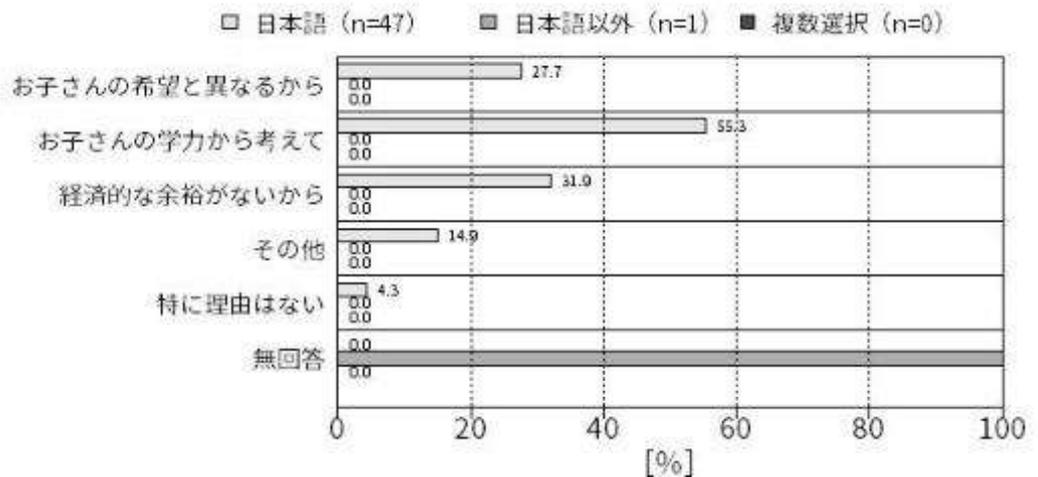
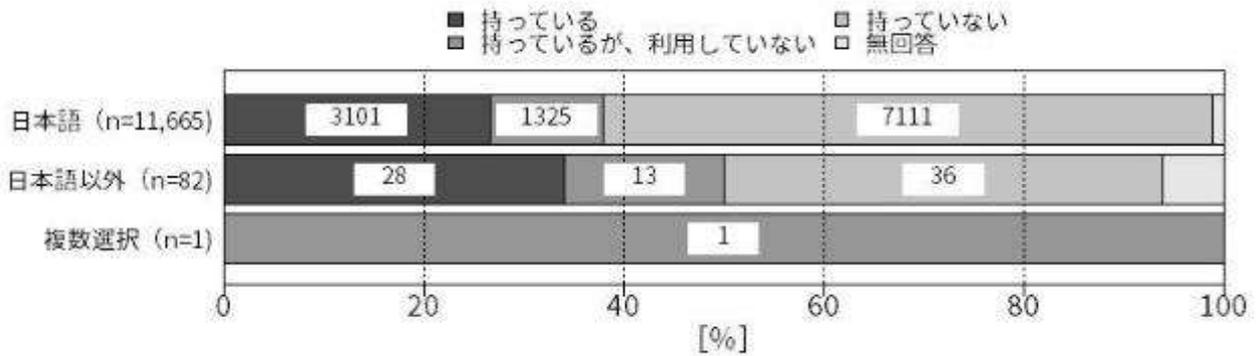


図 277. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードの所持状況  
 (保護者票 問2 × 保護者票 問18)

<大阪市24区>



<大阪市生野区>

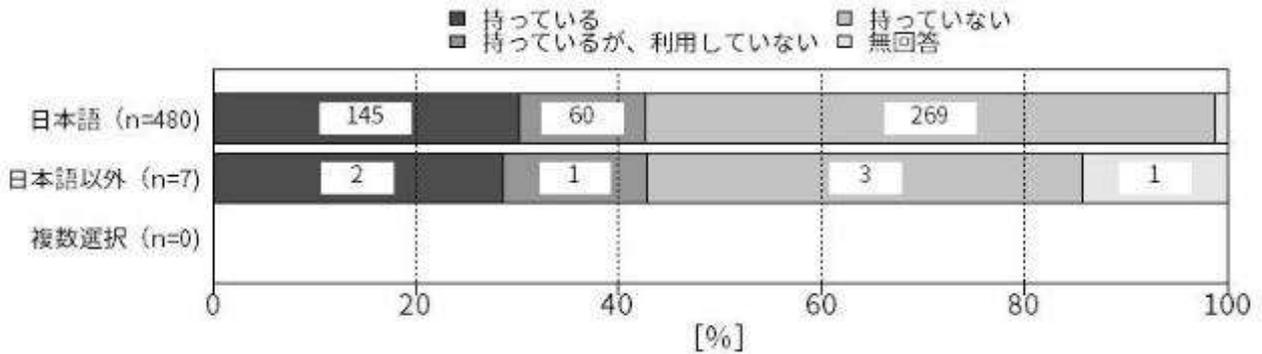
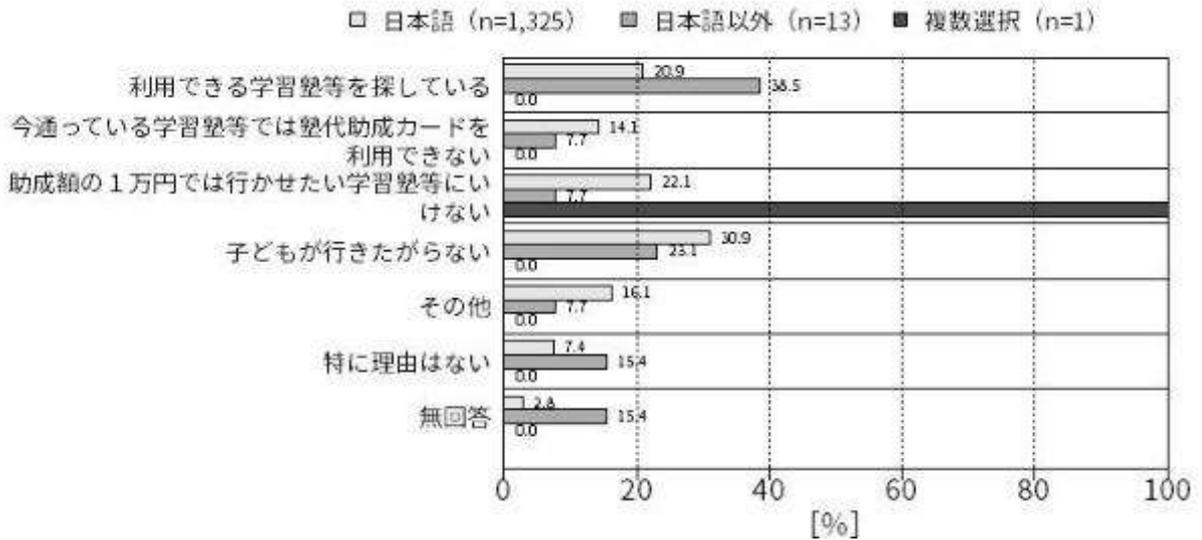


図 278. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードの所持状況

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っているが利用していない理由  
 (保護者票 問2 × 保護者票 問19)

<大阪市24区>



<大阪市生野区>

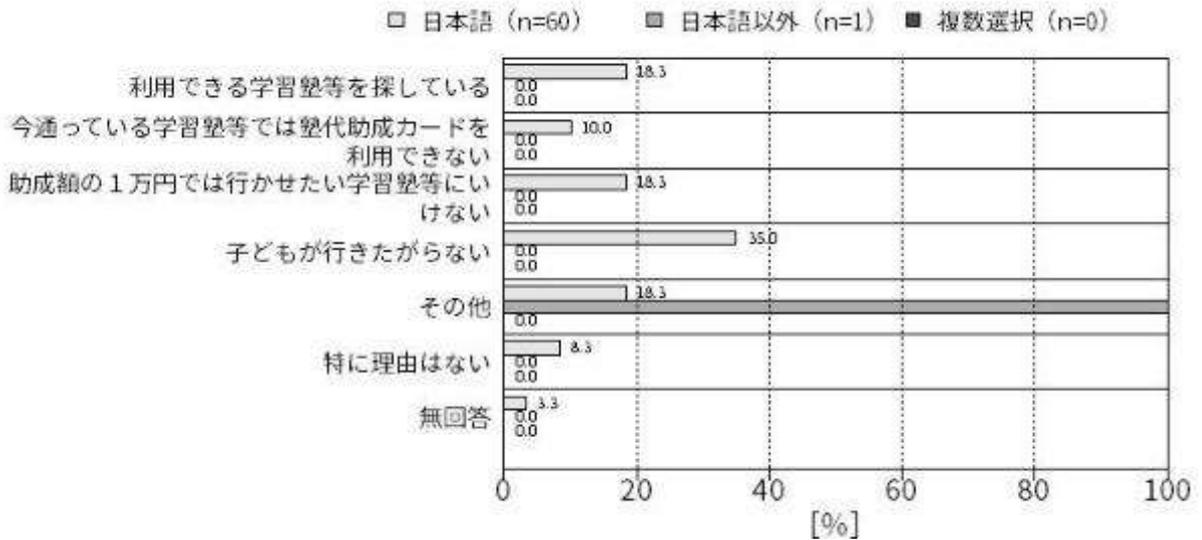


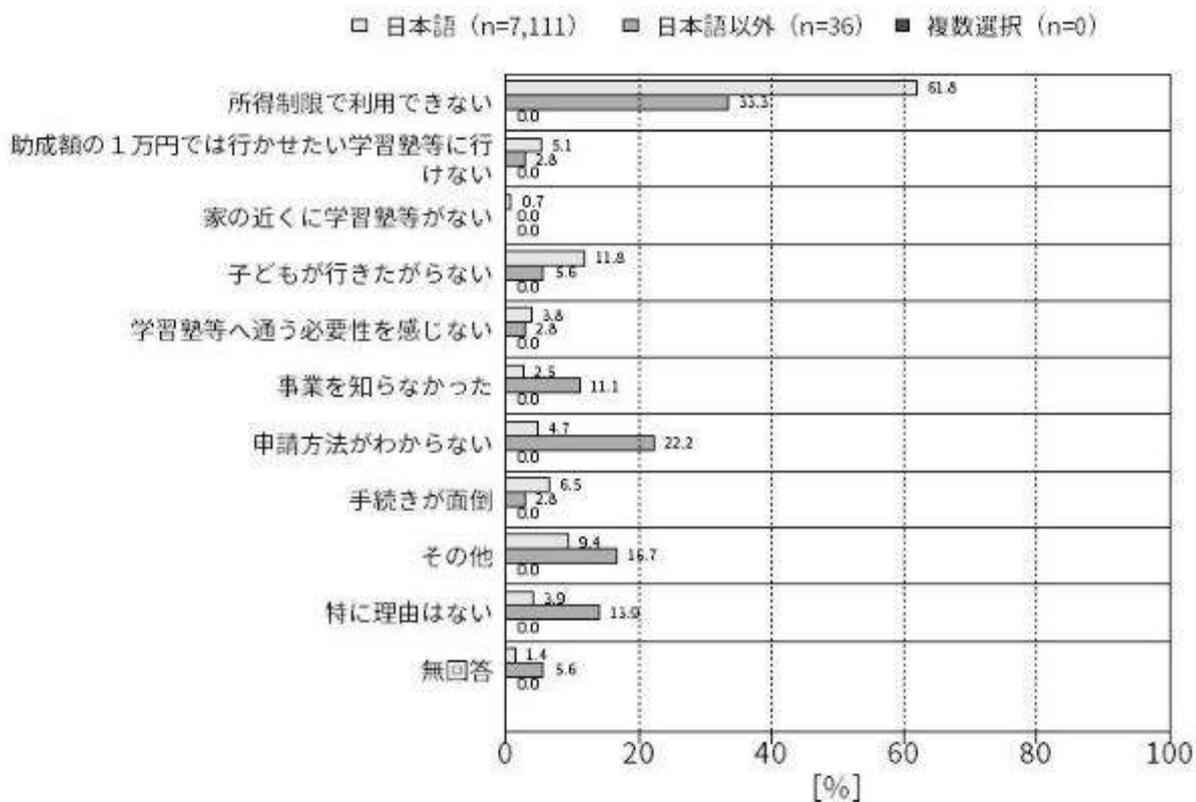
図 279. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っているが利用していない理由

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由

(保護者票 問2 × 保護者票 問20)

<大阪市24区>



<大阪市生野区>

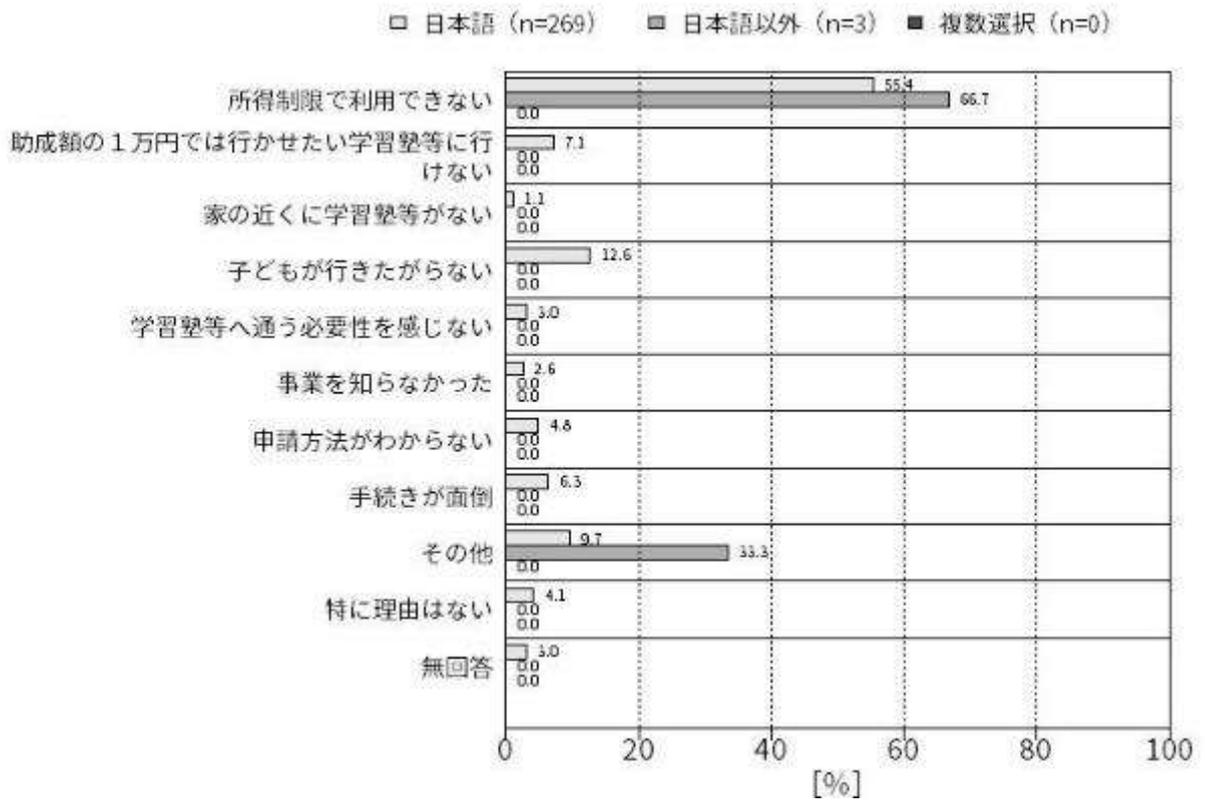


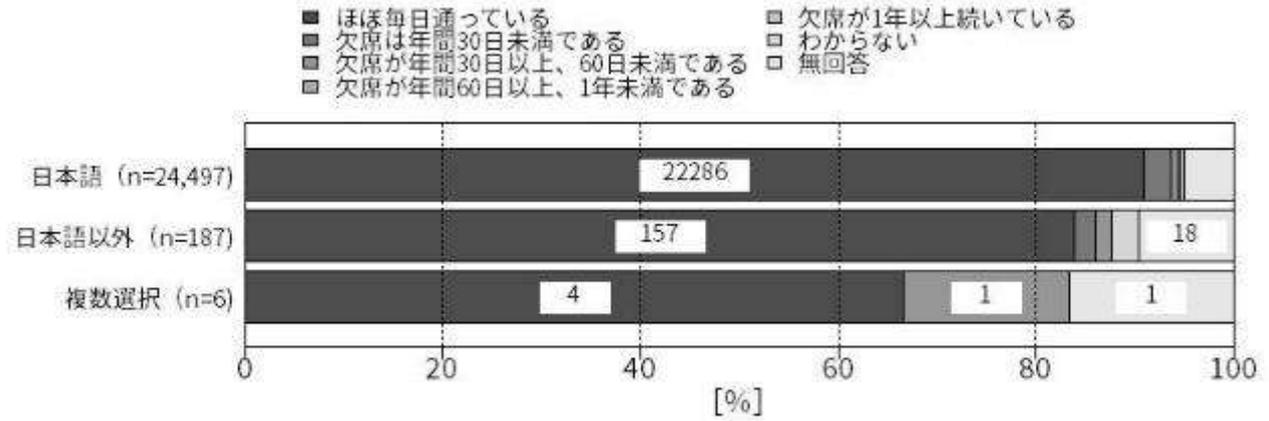
図 280. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

(保護者票 問2 × 保護者票 問21)

<大阪市24区>



<大阪市生野区>

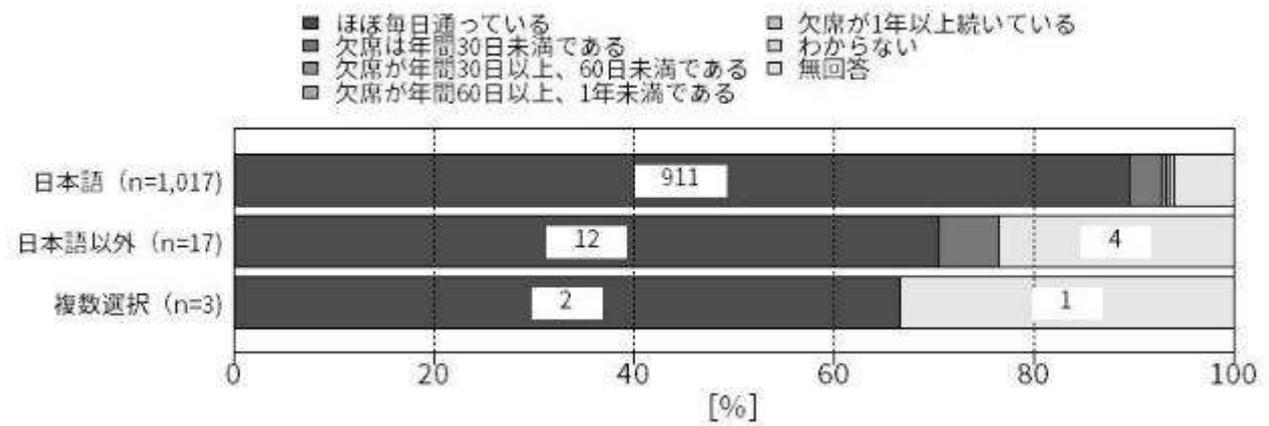


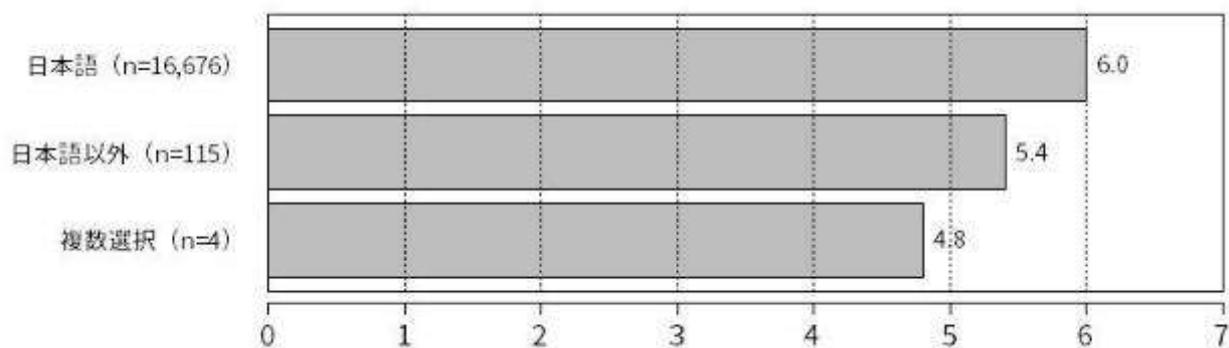
図 281. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点  
 (保護者票 問2 × 保護者票 問23①~⑦)

※「支えてくれる人得点」については図198上の説明参照。

<大阪市24区>



<大阪市生野区>

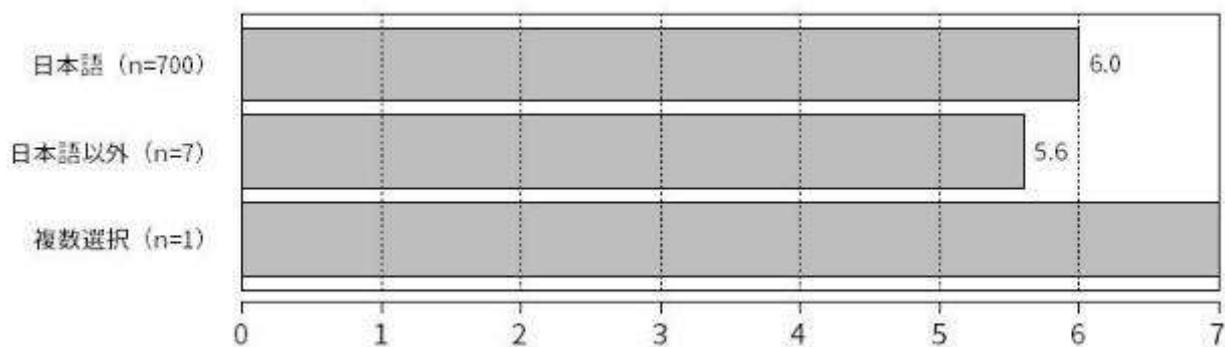


図 282. 日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点

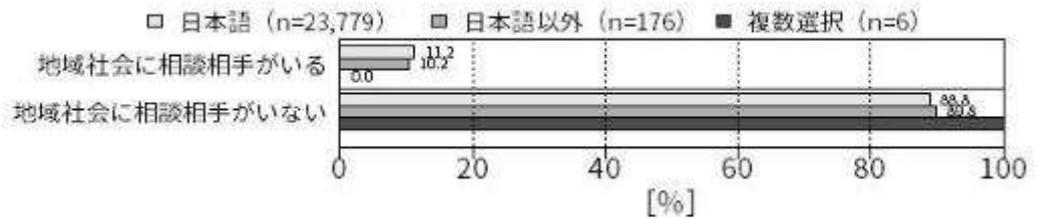
日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

(保護者票 問2 × 保護者票 問24)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問いに対し、「学校の先生やスクールカウンセラー」「子育て講座(小・中学生を持つ保護者を対象)等を担当するリーダーや職員等」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体」「民間のカウンセラー・電話相談」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪市24区>



<大阪市生野区>



図 283. 日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

## <家庭生活・学習に関する考察>

家庭生活・学習について、主に困窮度の視点から考察する。まず、おうちの大人との関わりを見ると、一緒に朝食を摂る頻度は大きな差はないものの、困窮度が高くなるとわずかに下がってくる。一緒に文化活動をする割合は困窮度が高まるにつれて明らかに「まったくしない」割合が高く 39.2%となった。

次に、子どもの勉強時間に目を向けると、困窮度が高まるにつれて明らかに短くなり、「まったくしない」と「30分より少ない」をあわせると、困窮度Ⅱ群・困窮度Ⅰ群ではいずれも40%弱となり、大阪市24区と同程度である。これにともなって学習理解度も「よくわかる」「だいたいわかる」をあわせた割合は困窮度が高まるにつれ低くなっており、困窮度Ⅱ群・困窮度Ⅰ群では大阪市24区と同程度の約70%となっている。読書時間も困窮度が高い方が「まったくしない」割合が高かった(41.0%)。生活習慣との関連で勉強と読書の習慣を見ると、起床時間が決まっていない子ども、朝食を摂るのが週5回以下の子どもにおいては、勉強・読書ともに「まったくしない」・「30分より少ない」回答の割合が高く、特に読書を「まったくしない」子どもは40%以上に上った。困窮度別に見た学習時間と学習理解度の関連では、同じ学習時間であっても困窮度が高いと理解度が低く、努力が反映されない結果となっている。

子どもの将来に関して、困窮度が高まるにつれて期待や進学希望が低くなっていた。特に困窮度Ⅰ群において、子ども自身の進学希望が高校までである割合が30%前後と高い。子どもの進学希望は保護者の学歴とも関連しており、保護者が中卒・高校中退などの場合は子どもの進学希望も高校までであったり、保護者が大卒であれば子どもも大学まで進学する希望を持つ傾向にある。

学習塾等の利用も困窮度が高いと割合が低く、困窮度Ⅰ群では学習塾に通う割合が3割程度となっている。学習塾に通っている子どもの方が勉強時間が長く、理解度も高く、進学希望も高い状態にある。塾代助成の利用を見ると、経済的な理由で塾に通わせられなかった世帯では、助成額の不足や手続き上の面倒さ、子どもにおいては親に月謝の負担をかけられないなどの答えが挙がっていた。また、塾代助成カードを持っていても利用をしていない群が、進学先希望が低く、保護者の期待も低い状態にあった。

子どもの遅刻状況を見ると、困窮度Ⅱ群・困窮度Ⅰ群では週1回以上遅刻する子どもの割合が20%弱となっている。週1回以上遅刻する子どもに着目すると、保護者からの信頼や期待が低く、朝食を共にする頻度も低い傾向にある。学校のことを話したり、文化活動を「まったくしない」割合も高い(39.0%)。また、心身について気になることも多く、セルフ・エフィカシーの得点も低い。学習の面でも理解度が低く、進学希望も中学・高校をあわせて20%以上となっている。通学状況を見ると、不登校の子どもはそうでない子どもよりも、学校や勉強のこと・おうちのこと・ともだちのこと・自分のことに悩む割合が高く、これらは大阪市24区に比べて該当する悩みが多い状況にある。

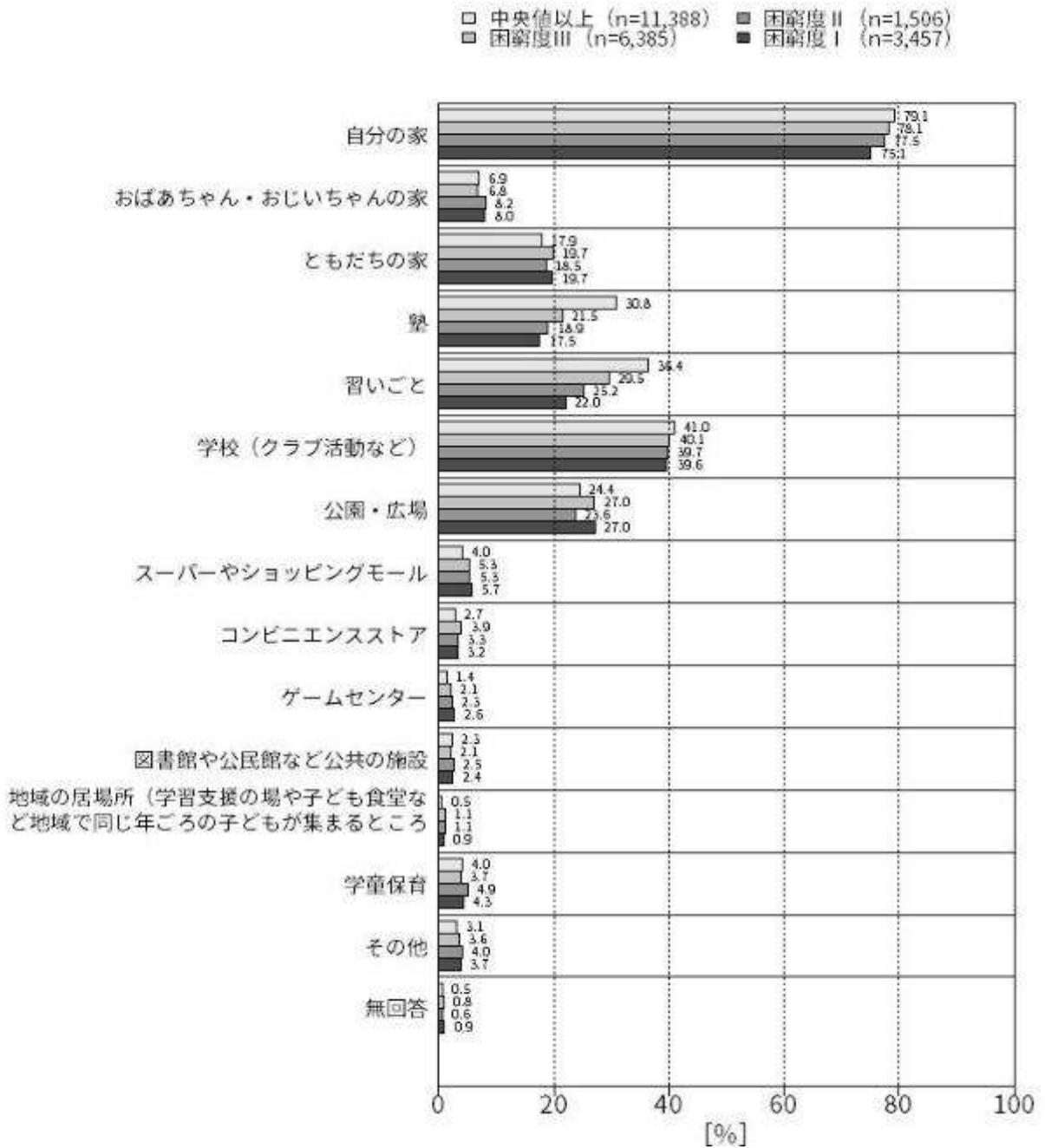
最後に、保護者と子どもの関わりを困窮度別に見ると、困窮度が高まるにつれて、子どもの帰宅時間・夕食の時間に家にいる割合が低くなる。

困窮度が高まることで、総じて保護者・子どもの生活におけるさまざまな関わりや学習状況、将来への希望に影響が見られる。

### 3-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後に過ごす場所（子ども票 問13）

<大阪市 24 区>



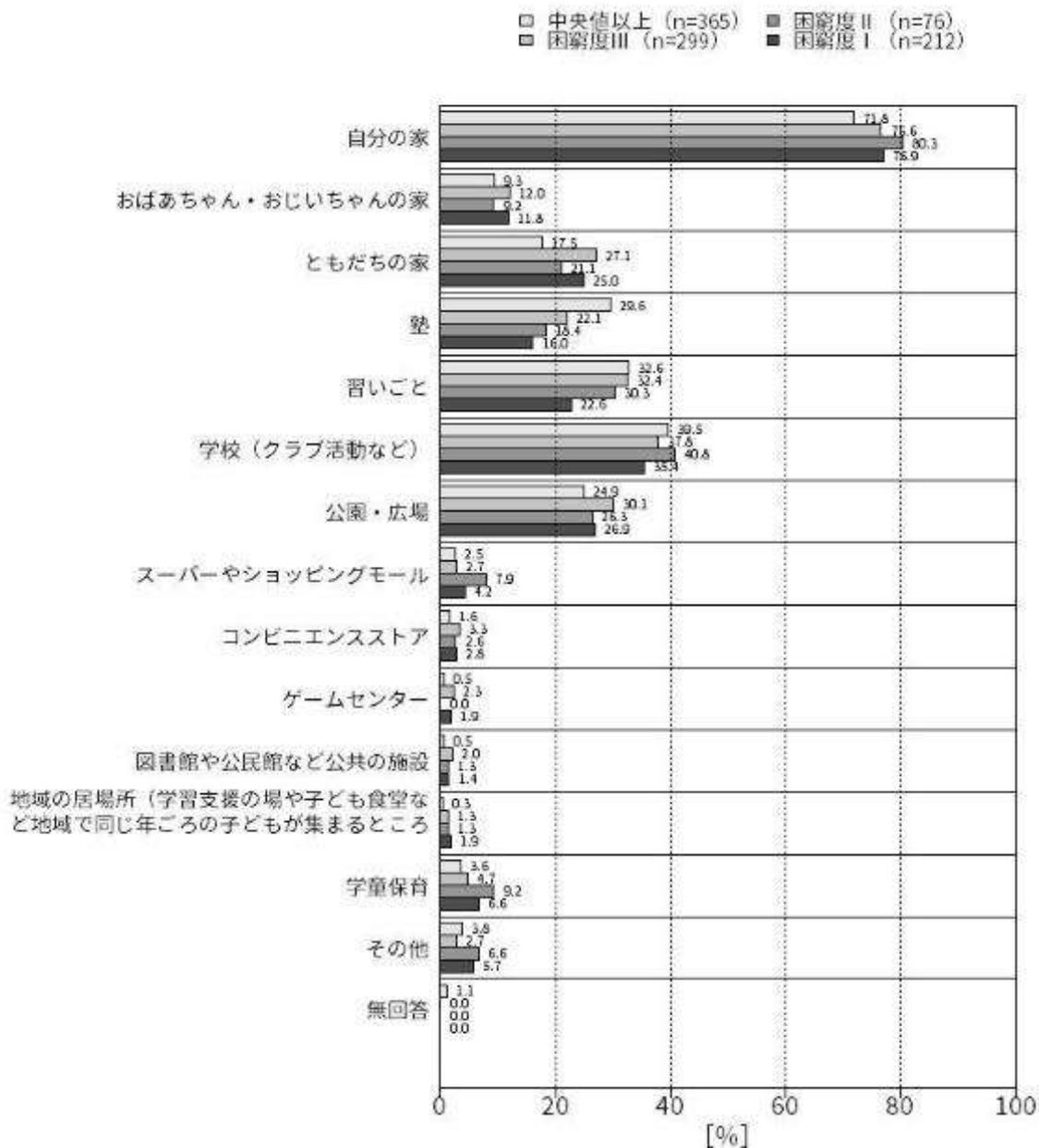
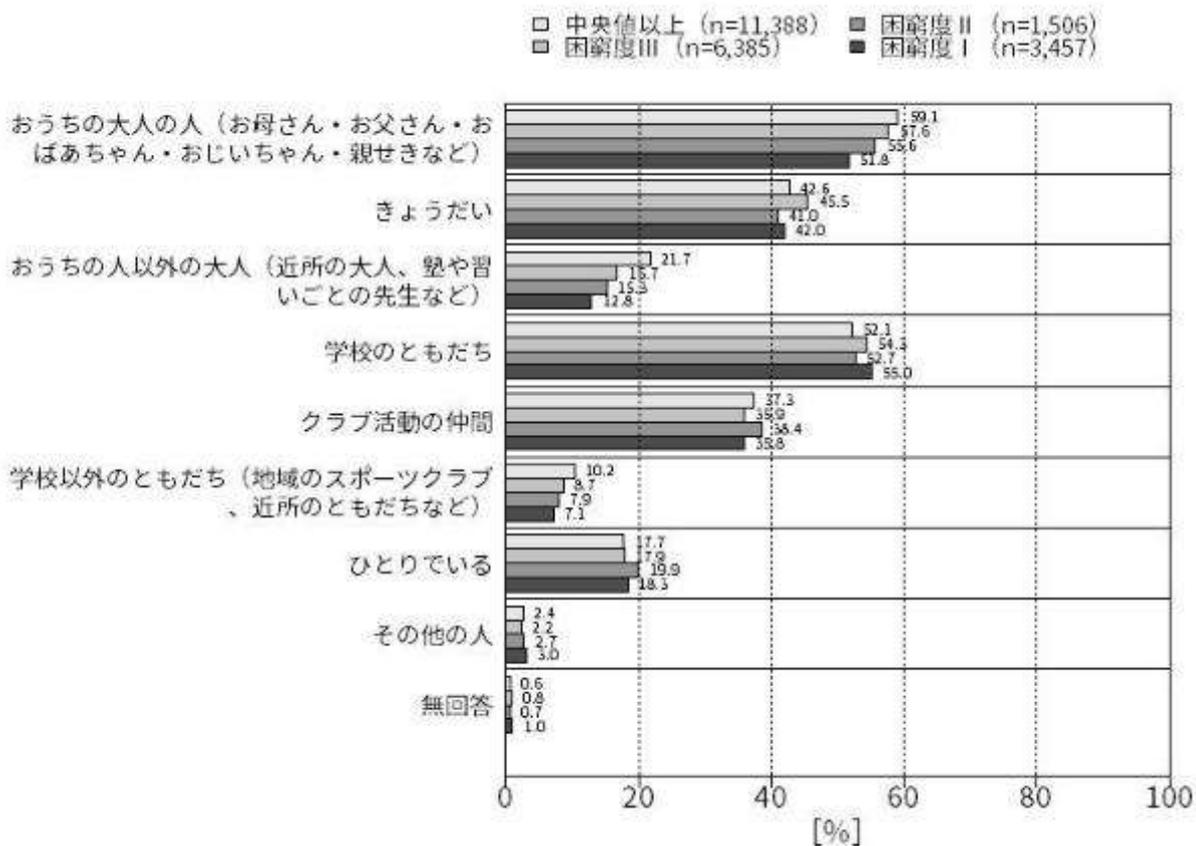


図 284. 困窮度別に見た、放課後に過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「地域の居場所 (学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所)」1.9% (中央値以上群に対して、6.3 倍)、「ゲームセンター」1.9% (3.8 倍)、「図書館や公民館など公共の施設」1.4% (2.8 倍)、となり、困窮度 I 群において高い項目が複数みられた。また、中央値以上群では「塾」29.6% (困窮度 I 群に対して、1.9 倍) が高かった。

困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人（子ども票 問 12）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

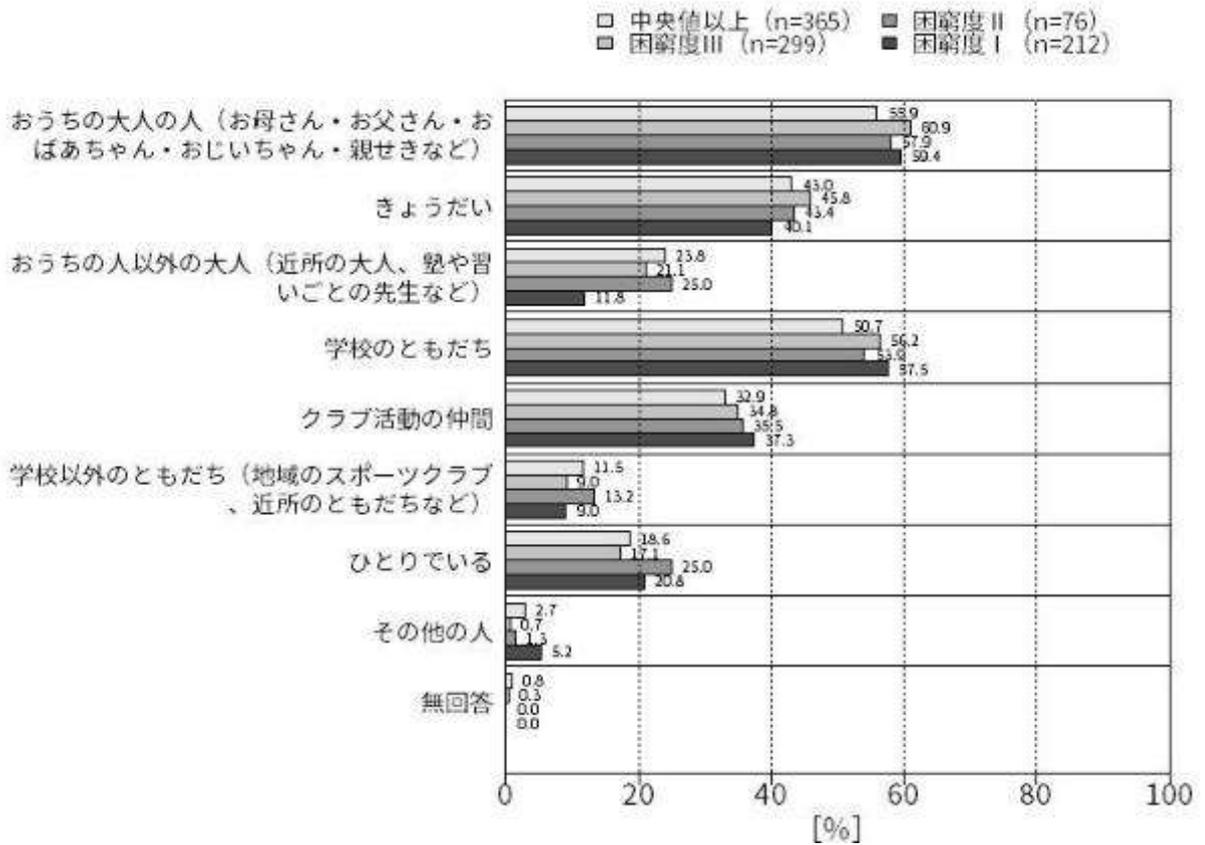


図 285. 困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「その他の人」5.2% (中央値以上群に対して、1.9 倍)、と高く、中央値以上群では「おうちの人以外の大人 (近所の大人、塾や習いごとの先生など)」23.8% (困窮度 I 群に対して、2 倍) が高かった。

困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人（保護者票 問 11）

<大阪市 24 区>

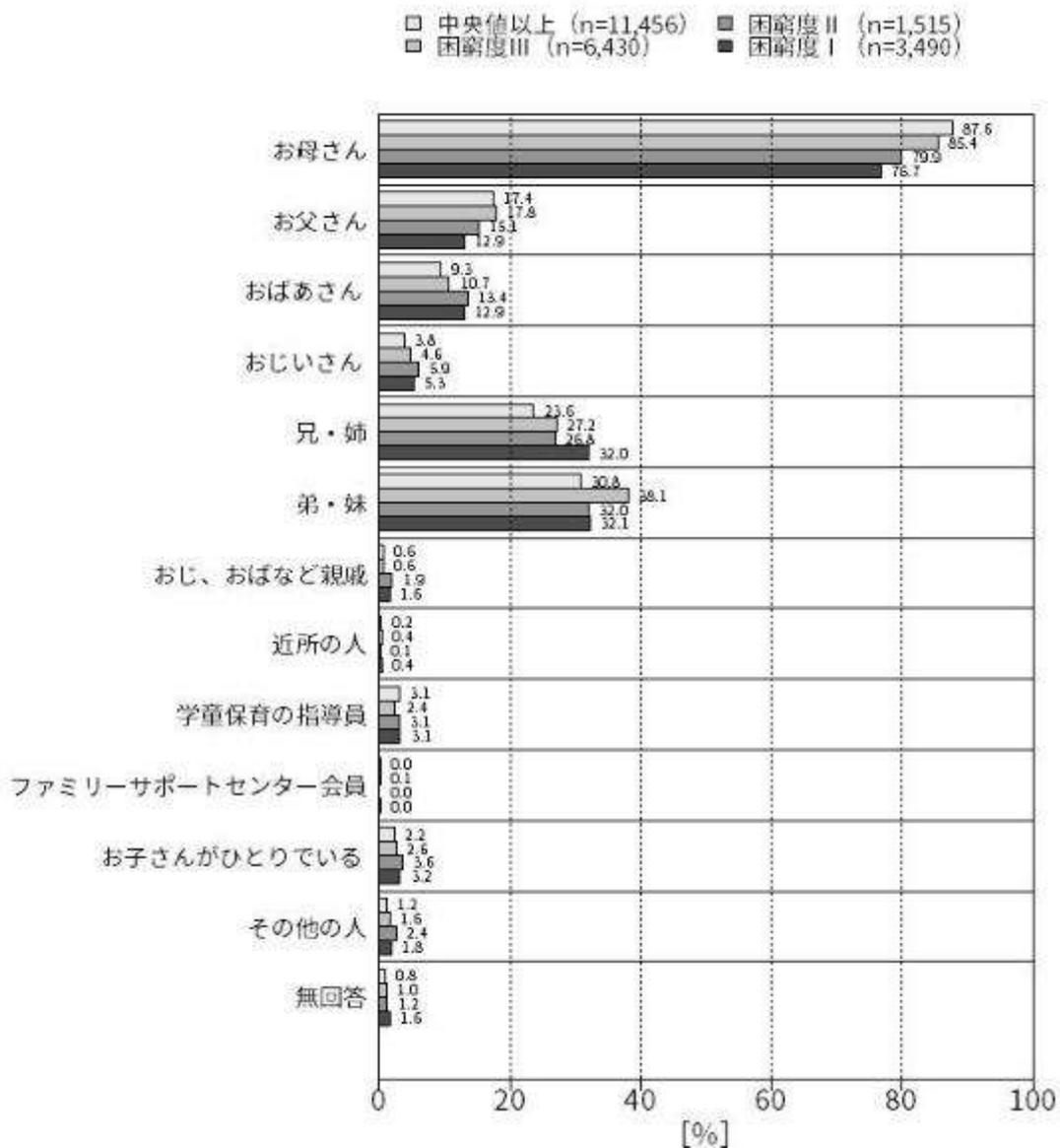


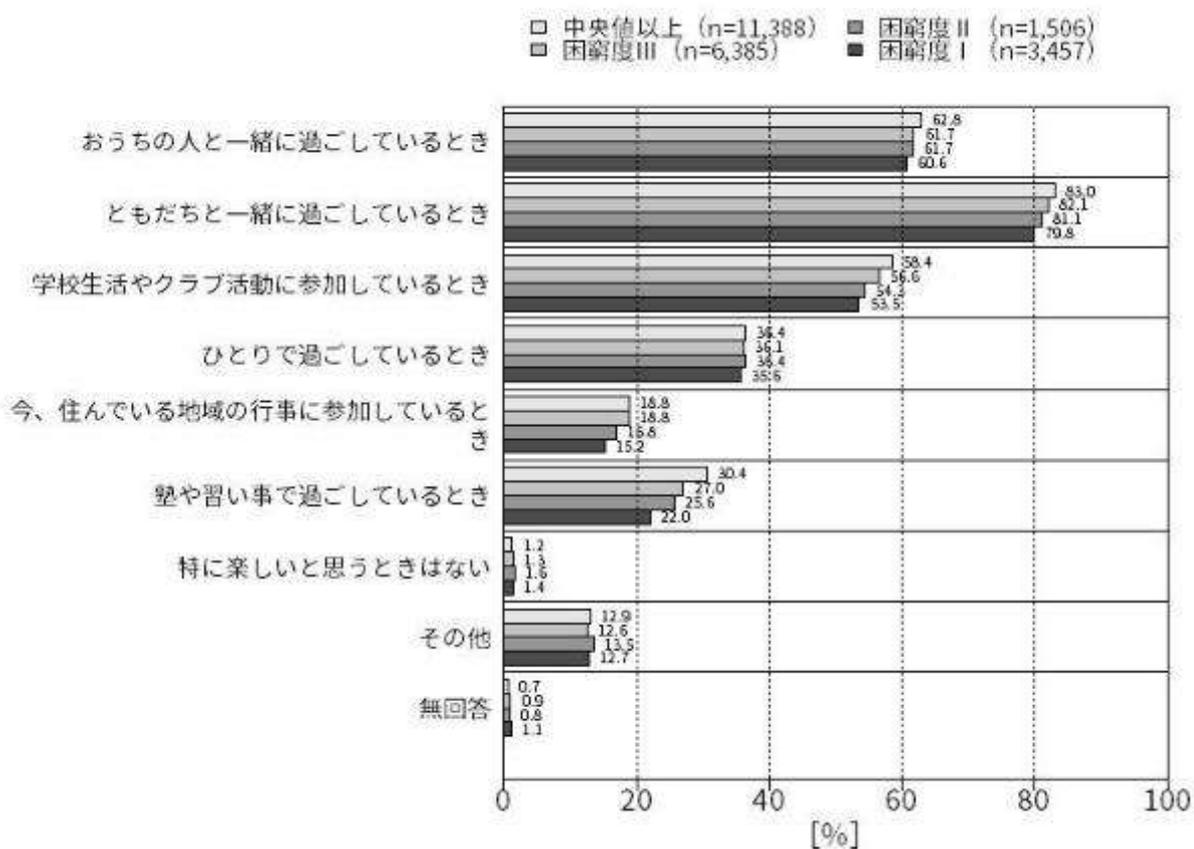


図 286. 困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

困窮度別に保護者が放課後に子どもと過ごす時間が長い人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「おじ、おばなど親戚」2.8%（中央値以上群に対して、9.3倍）、「お子さんがひとりである」1.9%（2.4倍）、「その他の人」2.8%（1.8倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票 問 11）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

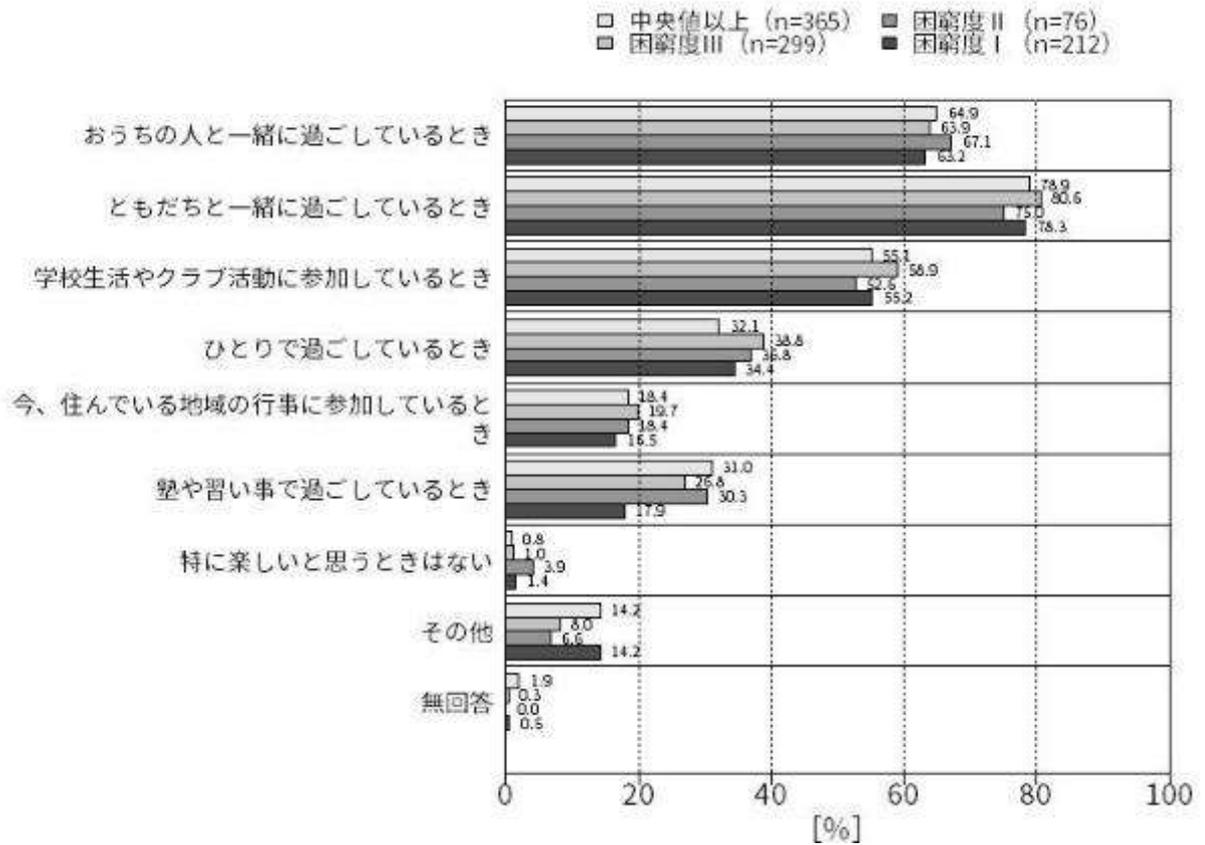
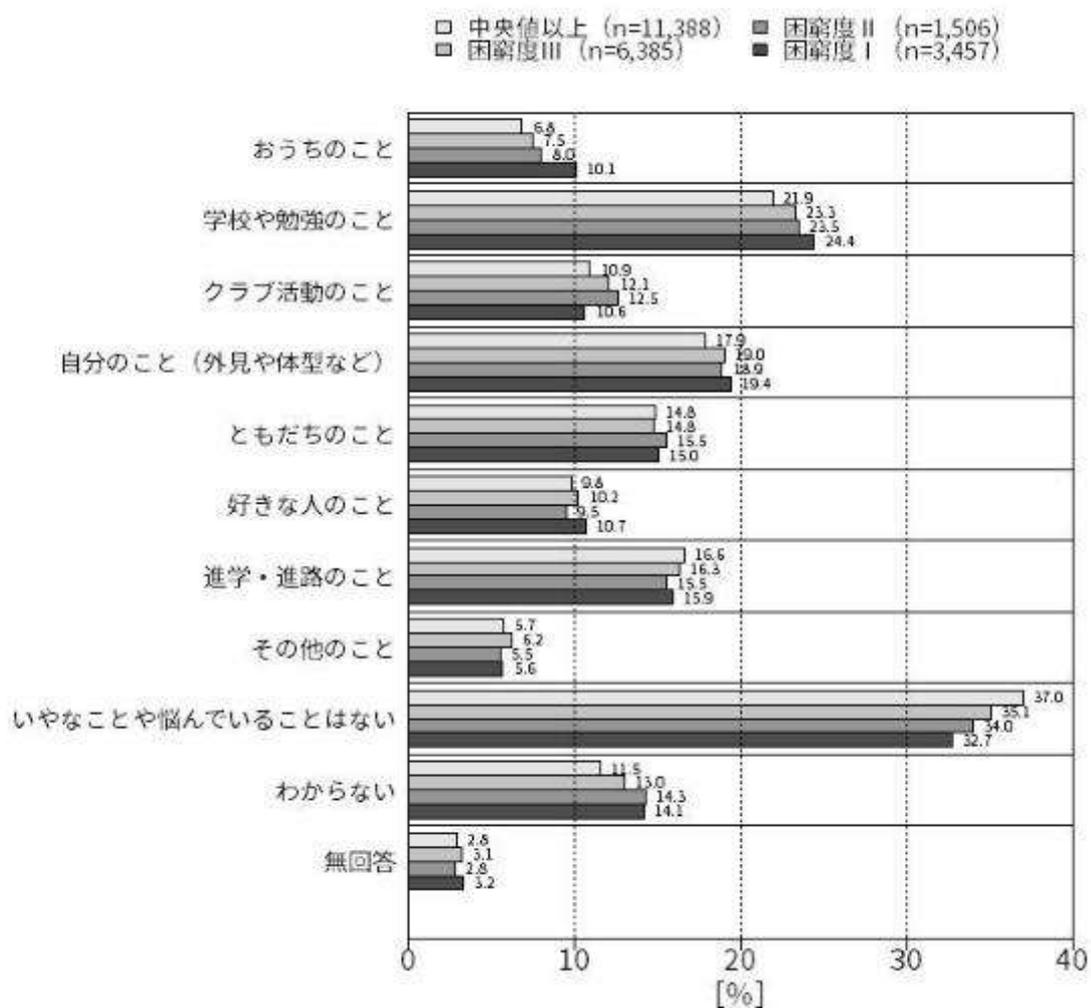


図 287. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「特に楽しいと思うときはない」1.4%（中央値以上群に対して、1.8 倍）が高かった。

困窮度別に見た、悩んでいること（子ども票 問21）

<大阪市 24 区>



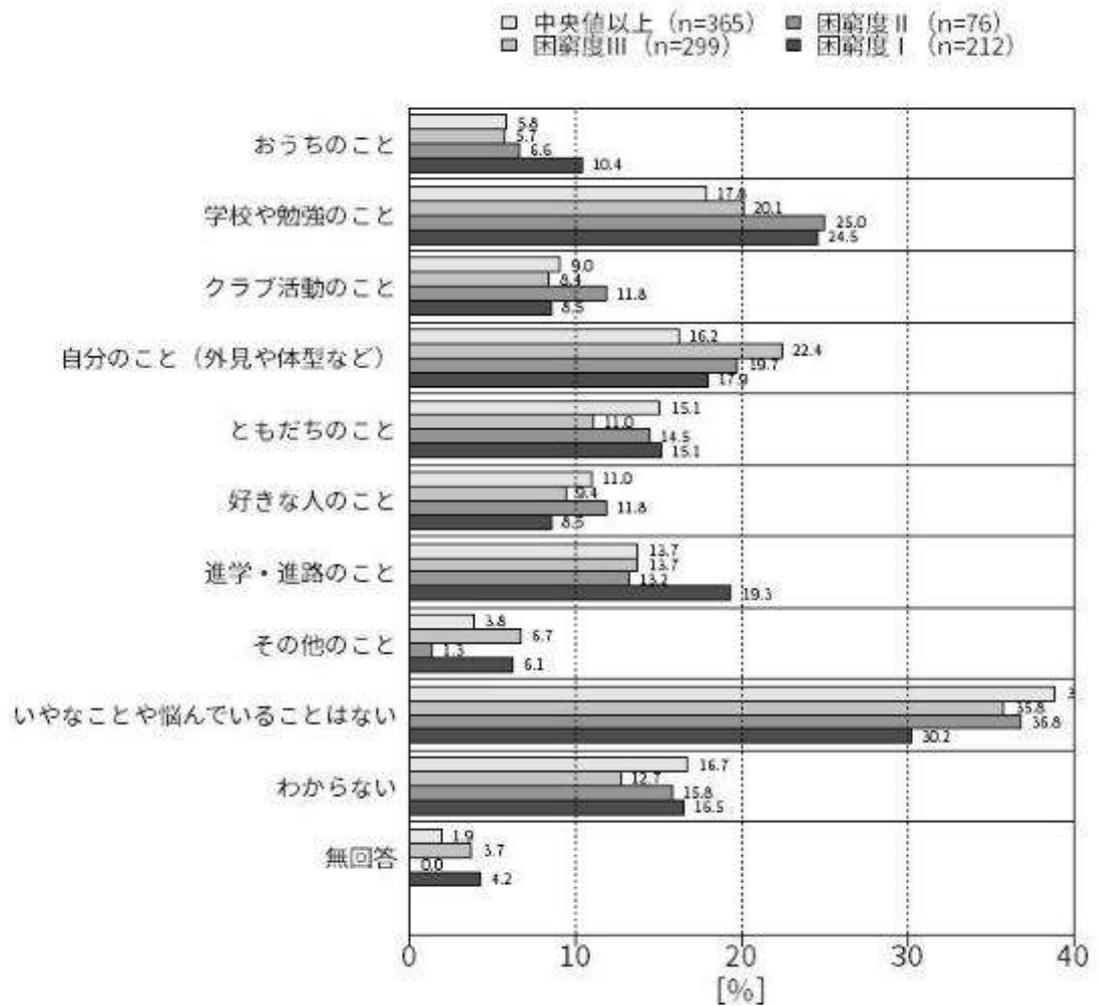
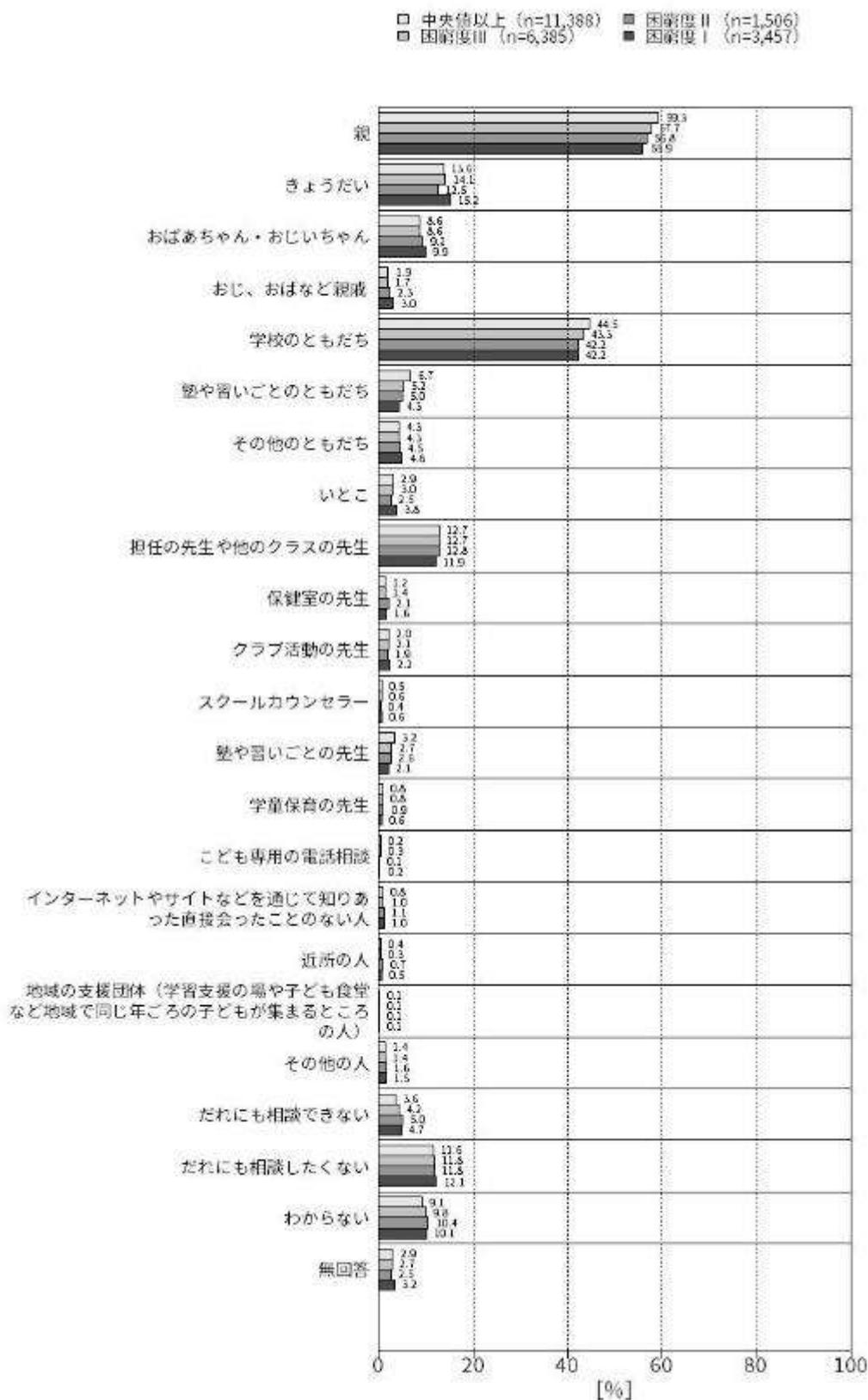


図 288. 困窮度別に見た、悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度 I 群では、「おうちのこと」10.4%（中央値以上群に対して、1.8 倍）、「その他のこと」6.1%（1.6 倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票 問22）

<大阪市 24 区>



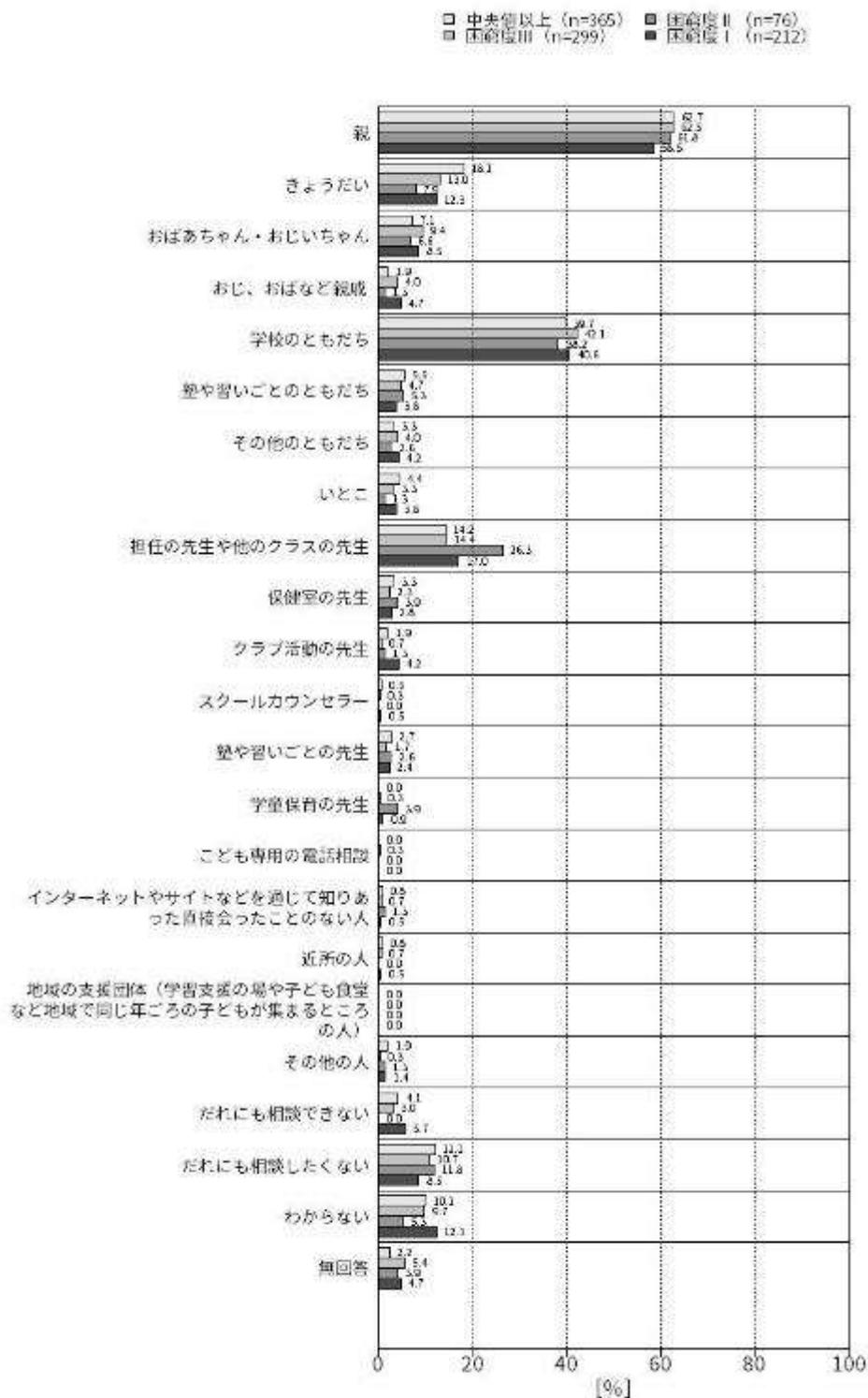
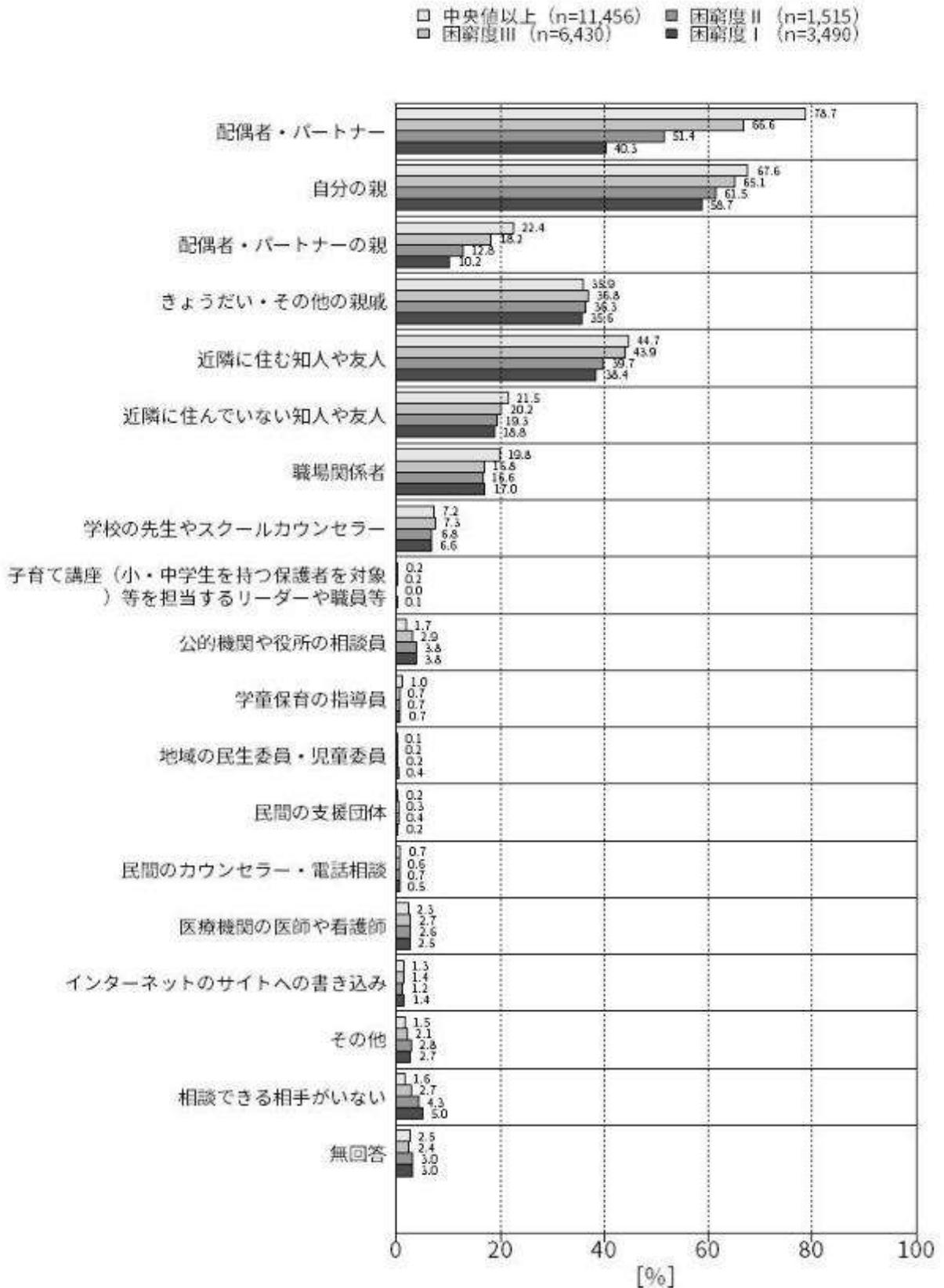


図 289. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

困窮度別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「おじ、おばなど親戚」4.7%（中央値以上群に対して、2.5倍）、「クラブ活動の先生」4.2%（2.2倍）が高かった。

困窮度別に見た、困ったときの相談先（保護者票 問 24）

<大阪市 24 区>



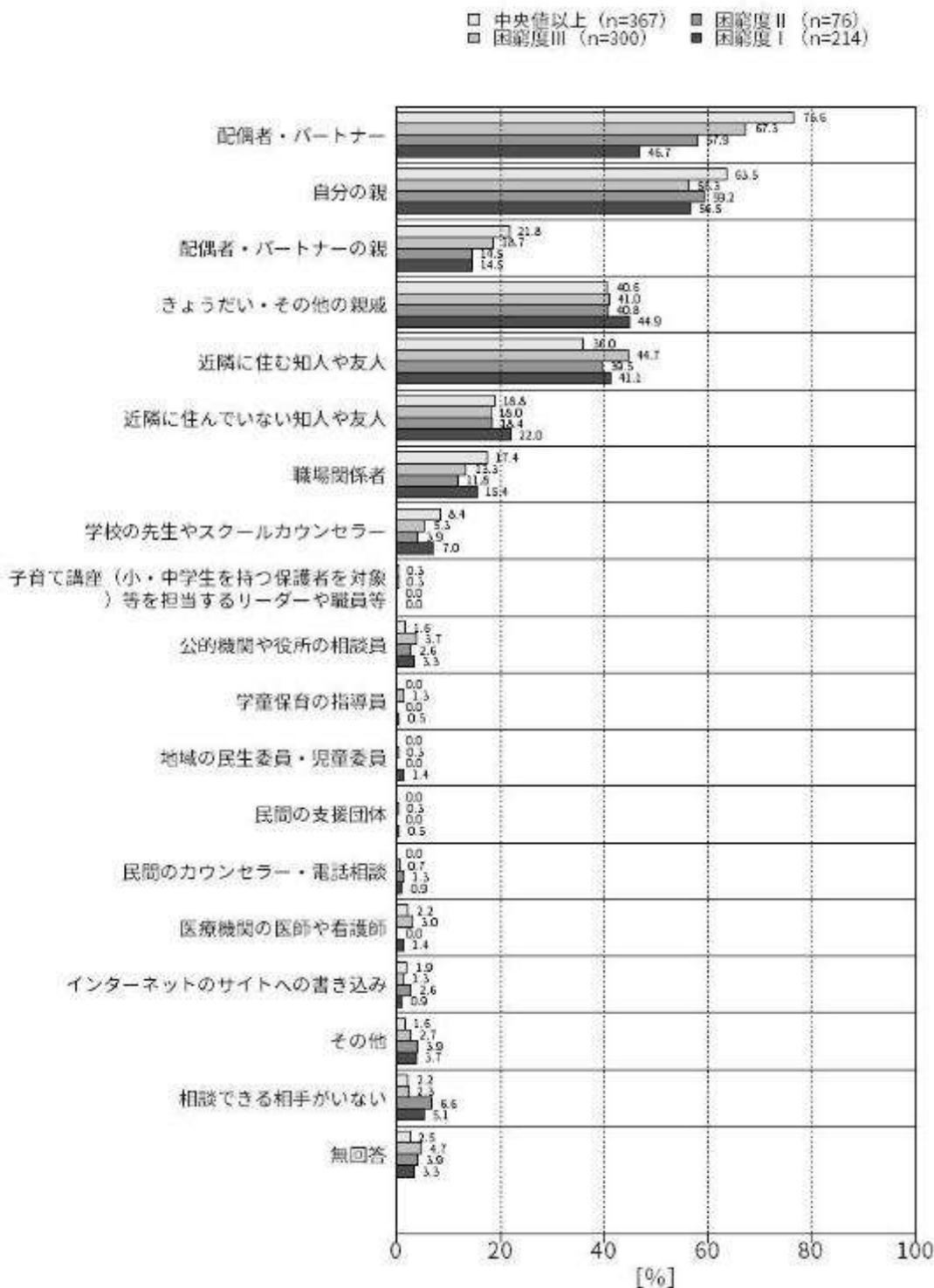
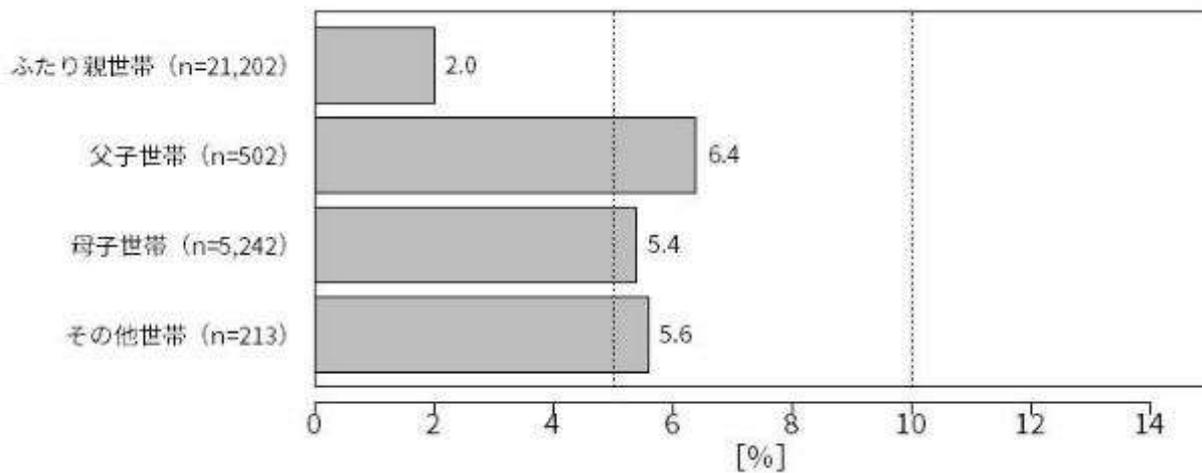


図 290. 困窮度別に見た、困ったときの相談先

困窮度別に保護者の困ったときの相談先を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「相談できる相手がいない」5.1%（中央値以上群に対して、2.3倍）、「その他」3.7%（2.3倍）、「公的機関や役所の相談員」3.3%（2.1倍）が高かった。さらに、中央値以上群では「配偶者・パートナー」と回答した割合が76.6%だったのに対して、困窮度Ⅰ群では46.7%だった。

世帯構成別に見た、相談相手のいない割合（保護者票 問 24）

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

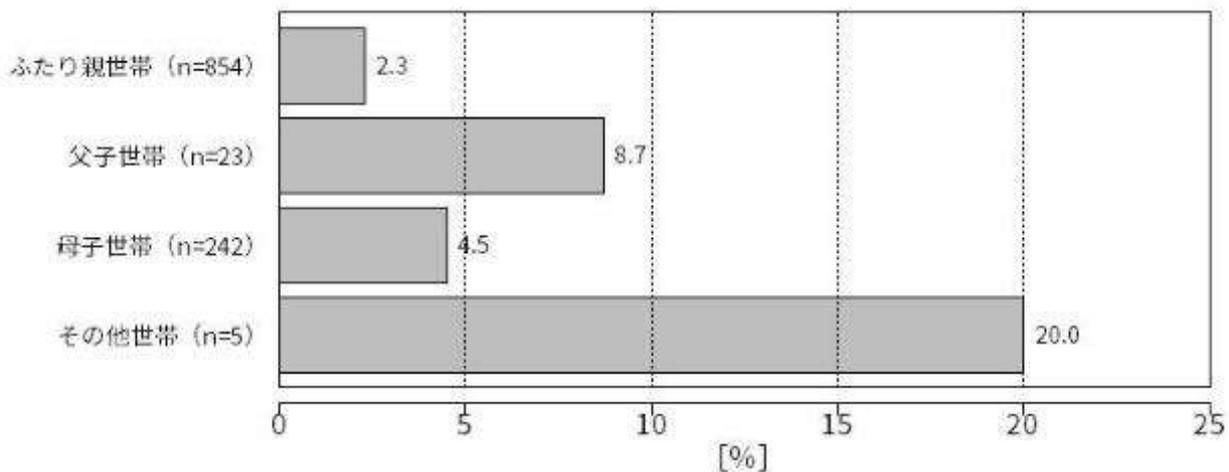


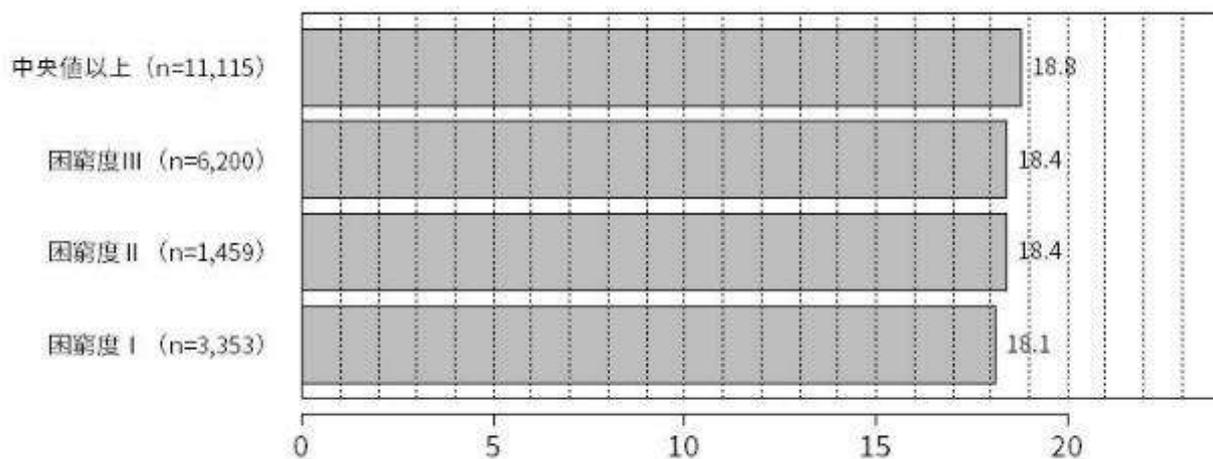
図 291. 世帯構成別に見た、相談相手のいない割合

世帯構成別に保護者の困ったときの相談先を見ると、「相談相手がない」と回答した人は、ふたり親世帯で2.3%、父子世帯で8.7%、母子世帯で4.5%いる。

困窮度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー（子ども票 問 26(1)～(6)）

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

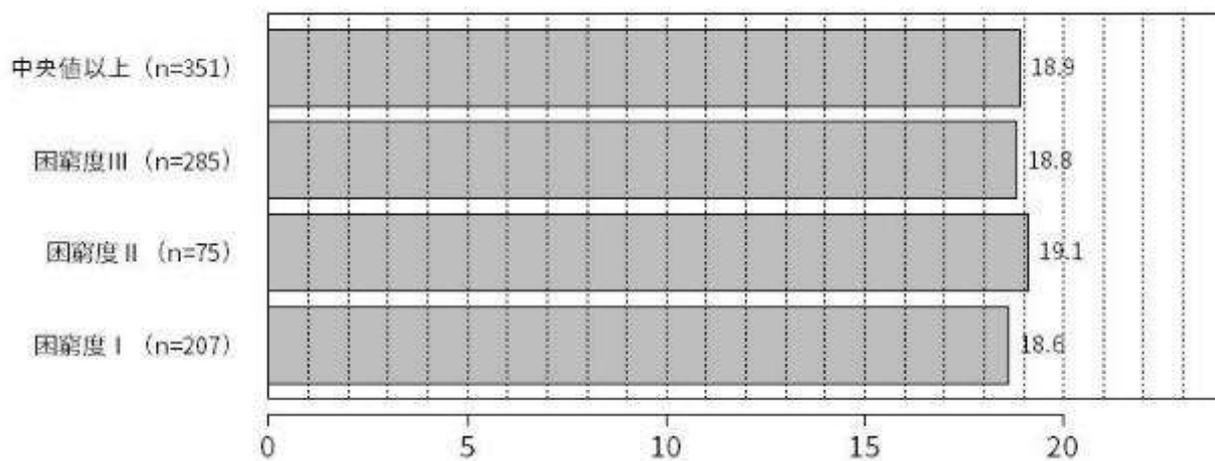


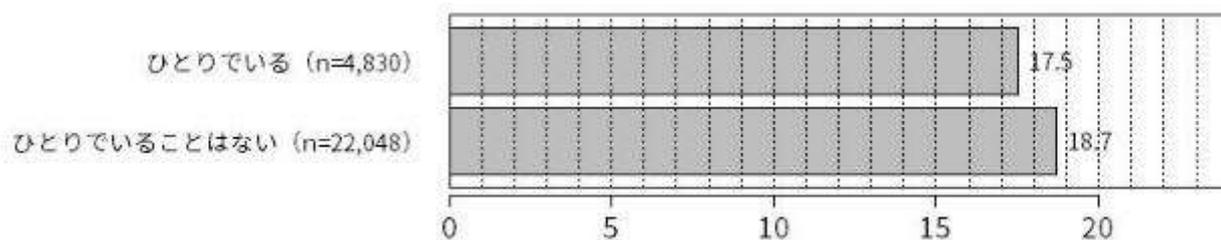
図 292. 困窮度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均値は、中央値以上群で 18.9 点、困窮度Ⅲ群で 18.8 点、困窮度Ⅱ群で 19.1 点、困窮度Ⅰ群で 18.6 点であり、差は見られなかった。

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どものセルフ・エフィカシー  
(子ども票 問 12 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

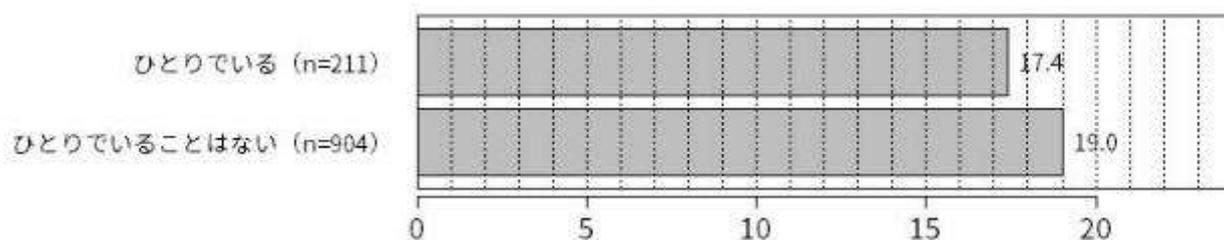


図 293. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どものセルフ・エフィカシー

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかによって子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、放課後ひとりで過ごす子どもの方は 17.4 点、ひとりでいることはない子どもは 19.0 点であった。

## 困ったときの相談先別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問 22 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

※「あなたは、いやなことや悩んでいることがあるとき、だれかに相談しますか。(だれに話しますか。)」に対し、以下のようにまとめた。

家族・親戚に相談：「親」「きょうだい」「おばあちゃん・おじいちゃん」「おじ・おばなど親戚」「いとこ」のうち1つ以上に回答した人

ともだちに相談：「学校のともだち」「塾や習い事のともだち」「その他のともだち」のうち1つ以上に回答した人

先生に相談する：「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」「クラブ活動や部活の先生」のうち1つ以上に回答した人

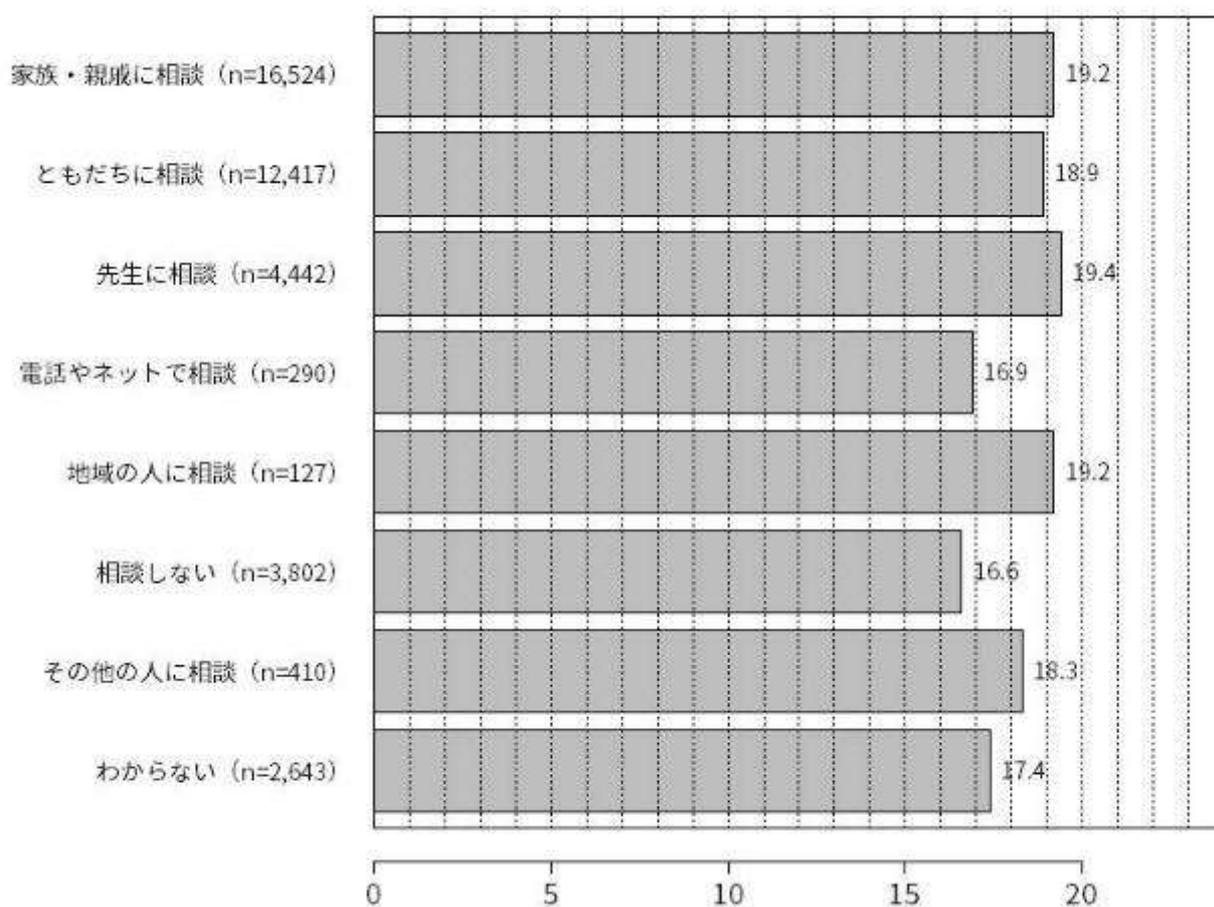
「スクールカウンセラー」「塾や習いごとの先生」「学童保育、児童いきいき放課後事業の先生」のうち1つ以上に回答した人

電話やネットで相談する群：「子ども専用の電話相談」「インターネットやサイトを通じて知り合った直接会ったことのない人」のうち1つ以上に回答した人

地域の人に相談する群：「近所の人」「地域の支援団体」のうち1つ以上に回答した人

相談しない群：「だれにも相談できない」「だれにも相談したくない」のうち1つ以上に回答した人

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

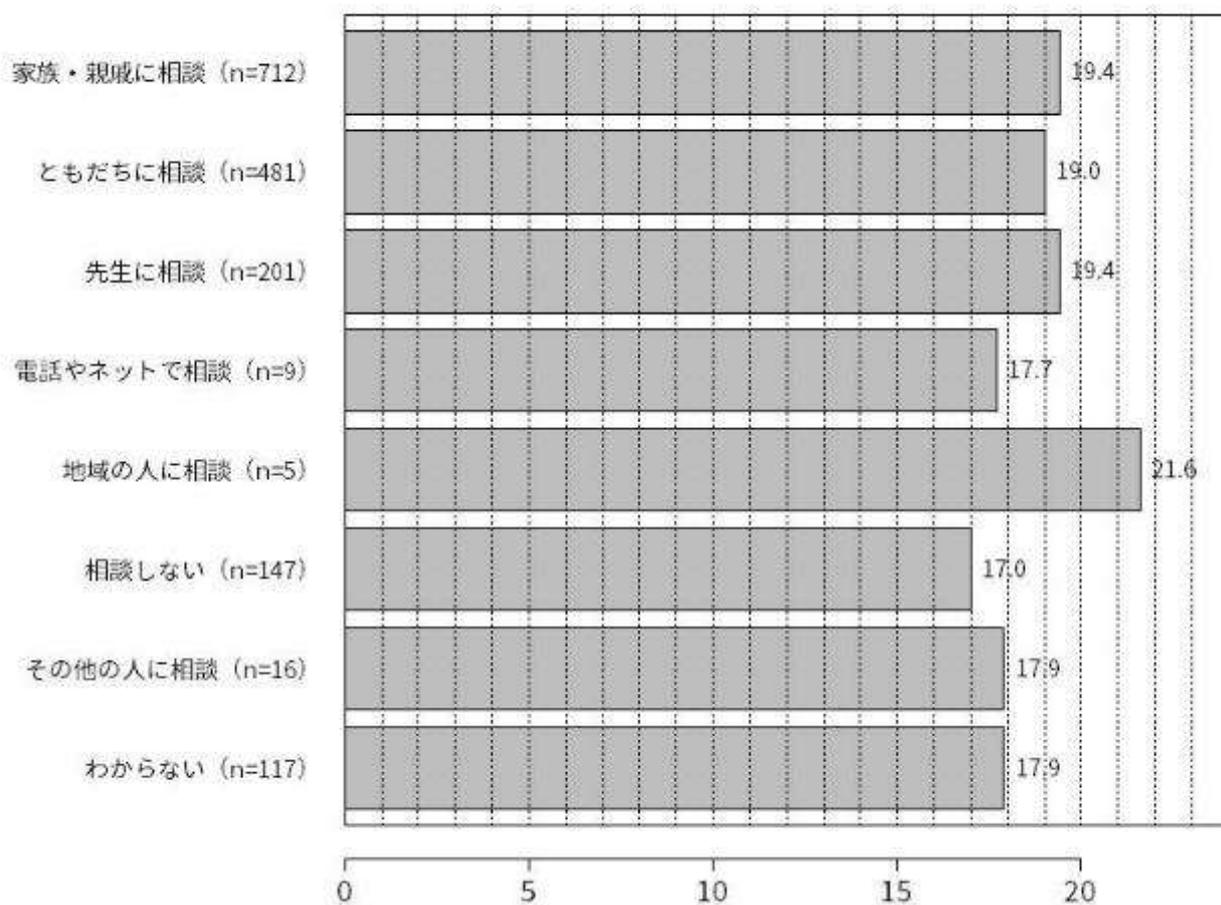


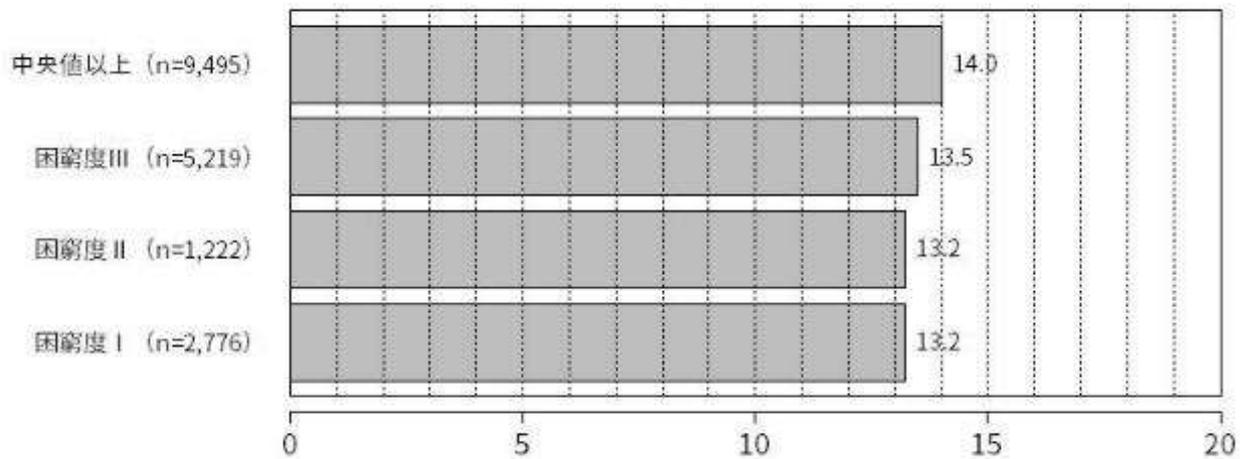
図 294. 困ったときの相談先別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）によって子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、低い順に「相談しない」17.0点、「電話やネットで相談」17.7点、「その他の人に相談」17.9点であった。

困窮度別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー（保護者票 問 29①～⑤）

※保護者のセルフ・エフィカシーについては図 197 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

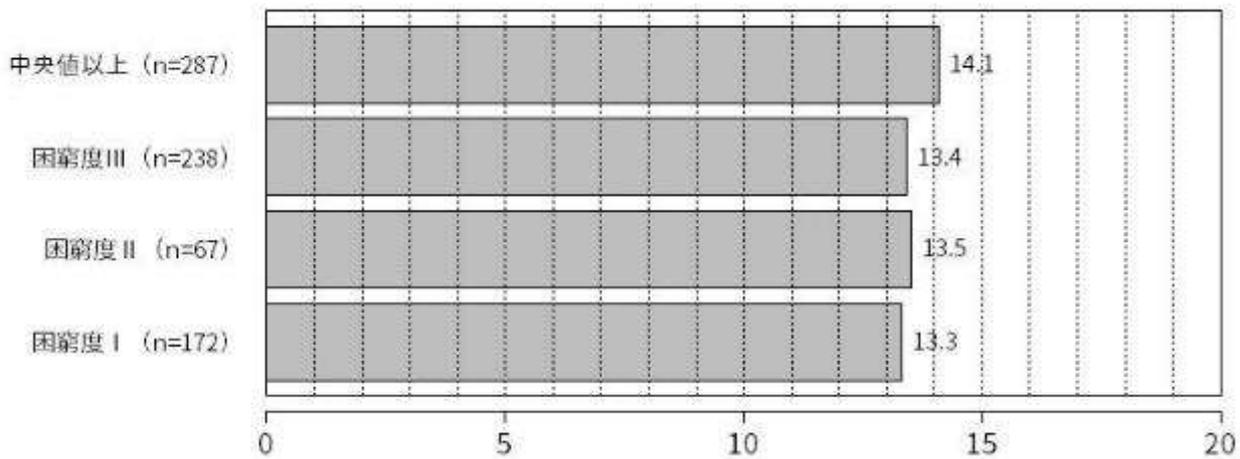


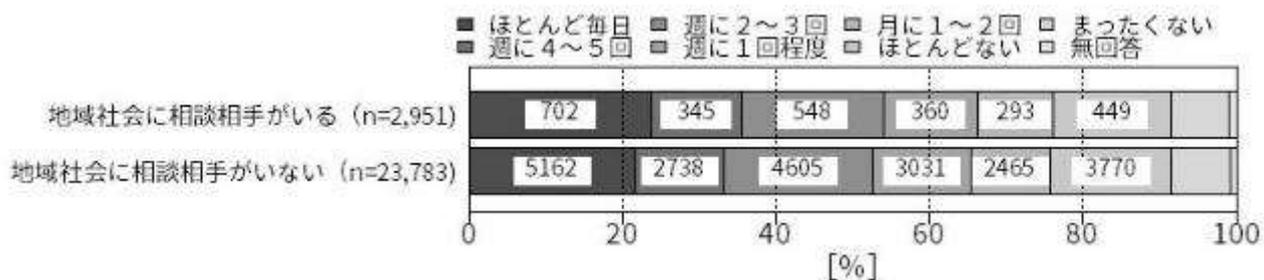
図 295. 困窮度別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー

困窮度別に保護者の自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると中央値以上群で 14.1 点、困窮度Ⅰ群で 13.3 点であった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (家の手伝いをするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10④)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

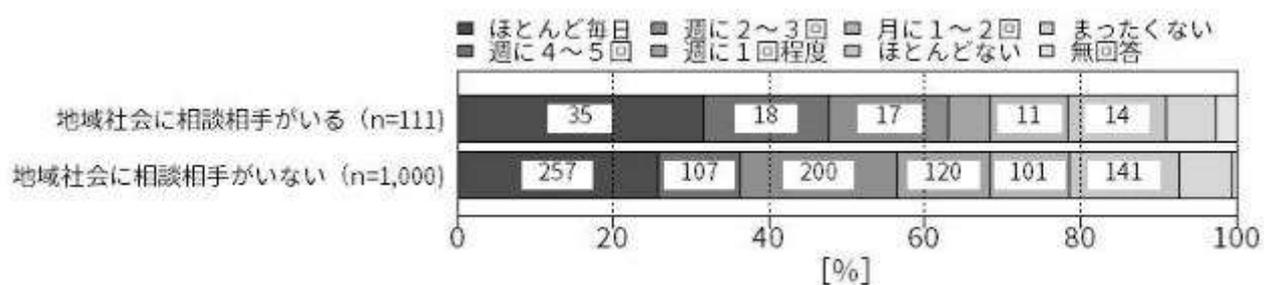


図 296. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (家の手伝いをするか)

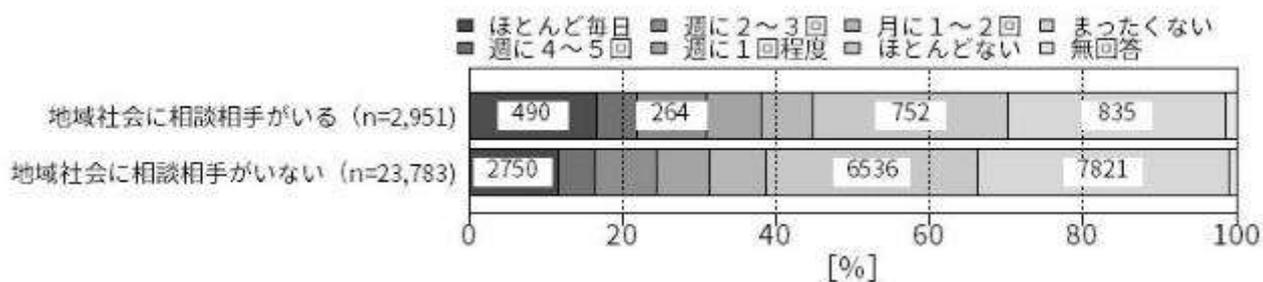
地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり (家の手伝いをするか) を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもが「おうちの手伝いをするか」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人に宿題をみてもらうか) (保護者票 問24 × 子ども票 問10⑤)

※「地域社会に相談相手がいる」については図283上の説明参照。

<大阪市24区>



<大阪市生野区>

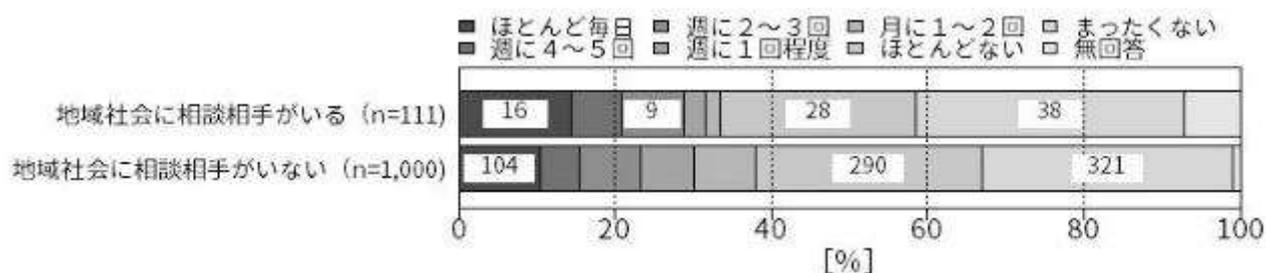


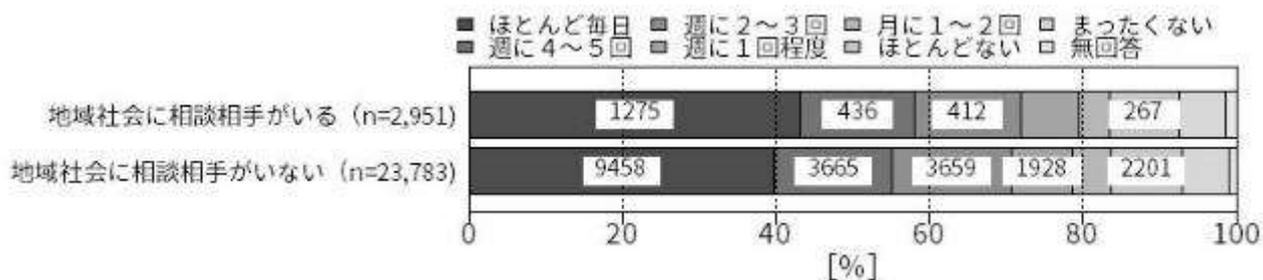
図297. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
(おうちの大人に宿題をみてもらうか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人の人に宿題（勉強）を見てもらっている」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人と学校の話をするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑥)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

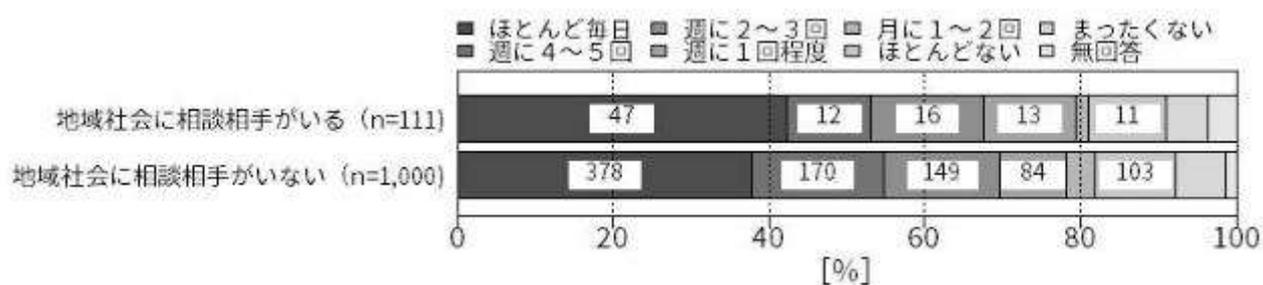


図 298. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人と学校の話をするか)

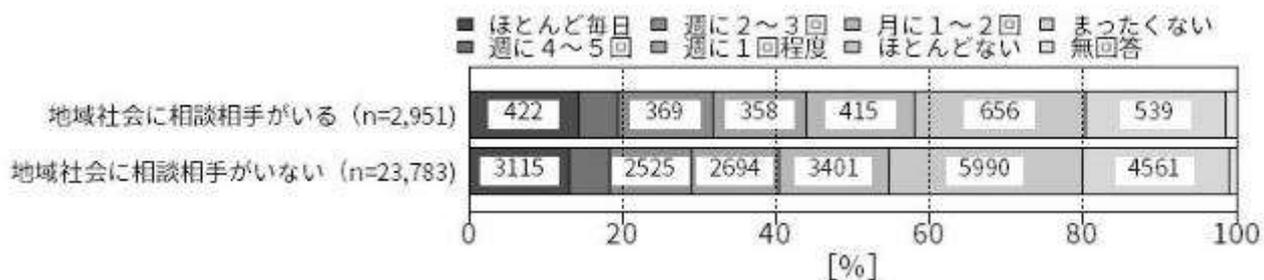
地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり (おうちの大人と学校の話をするか) を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人の人と学校のできごとについて話す」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑦)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

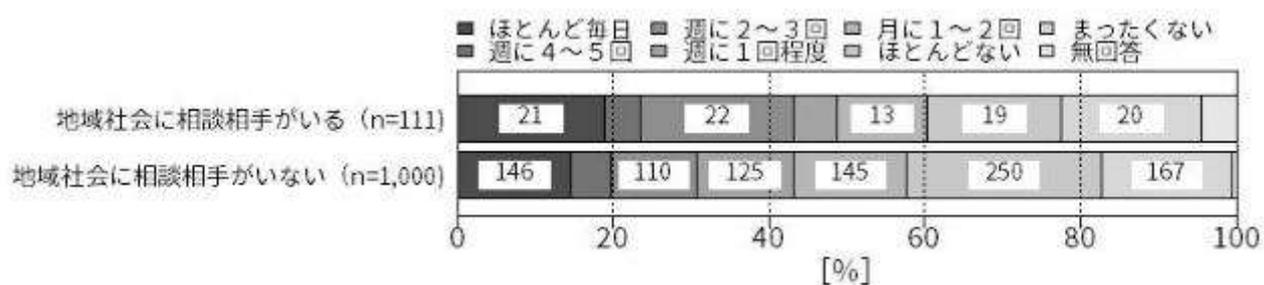


図 299. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか)

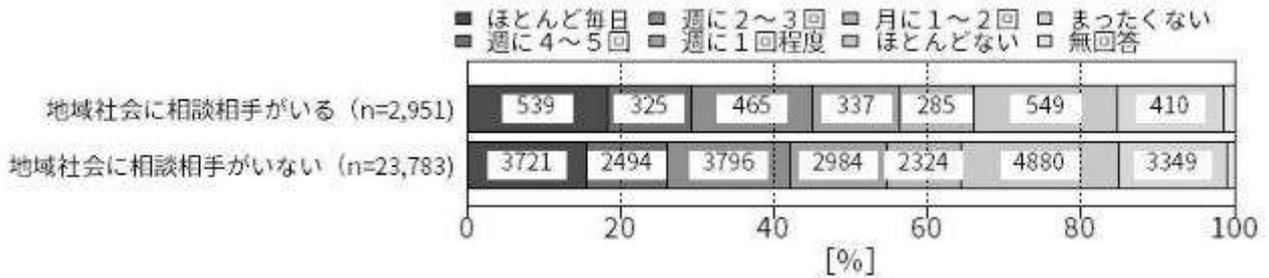
地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人と遊んだり、体を動かす」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と社会のできごとを話すか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑧)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

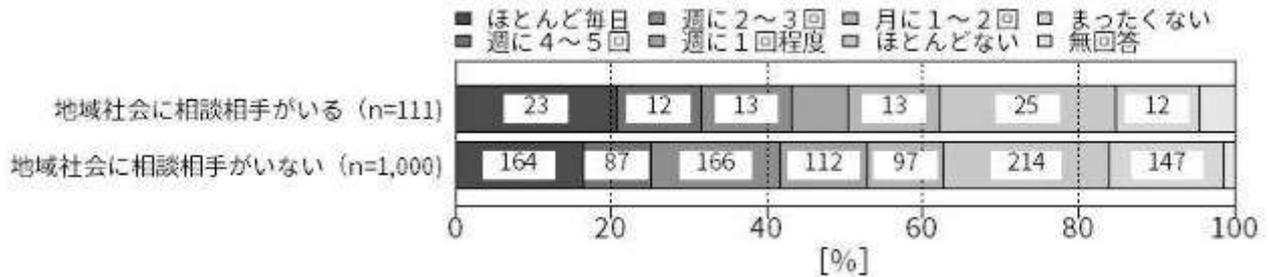


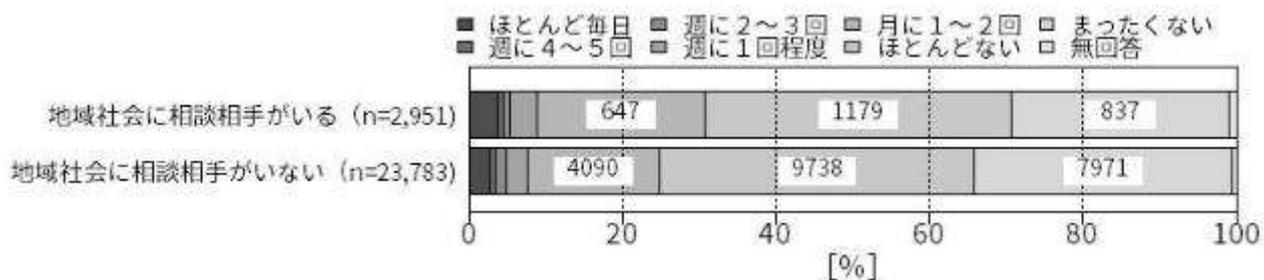
図 300. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
(おうちの大人と社会のできごとを話すか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもが「ニュースなど社会のできごとを話す」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人と文化活動をするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑨)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

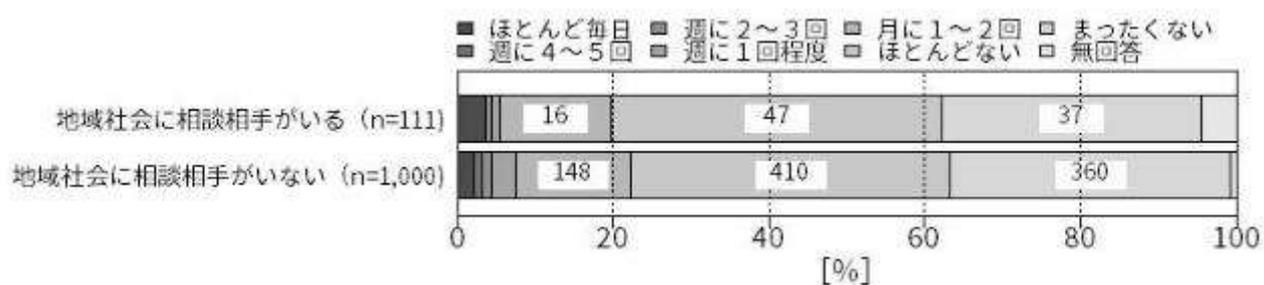


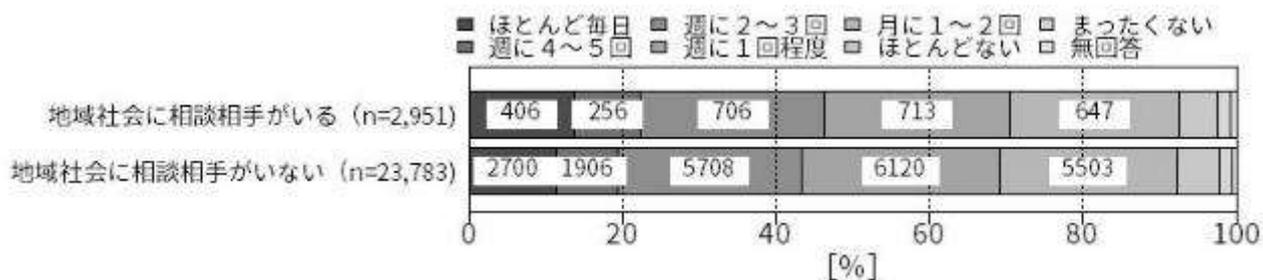
図 301. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人と文化活動をするか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり (おうちの大人と文化活動をするか) を見ると、大きな差は見られなかった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人と一緒に外出するか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑩)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市生野区>

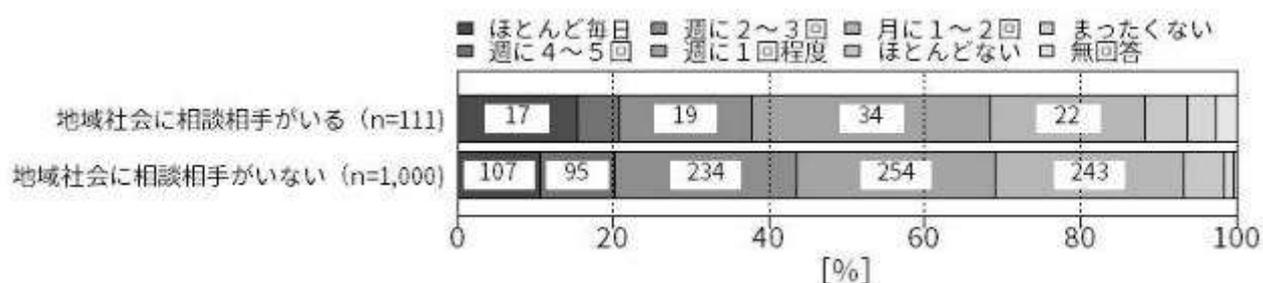


図 302. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり  
 (おうちの大人と一緒に外出するか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもが「おうちの大人と一緒に外出する」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

## <対人関係に関する考察>

子ども・保護者の社会的な対人関係について、大阪市 24 区の結果とも比較しながら、困窮度などの視点から考察する。

まず、子どもが放課後過ごす場所について、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度 I 群では「地域の居場所」(1.9%)、「ゲームセンター」(1.9%)、「図書館や公民館など公共の施設」(1.4%)が高い傾向にあり、困窮度が高まるにつれて一緒に過ごす人では「学校のともだち」が高まる傾向にあった。反対に中央値以上群では塾・習い事が多く、一緒に過ごす人も学校以外のともだちや家族外の大人が多い。

楽しいことについての回答では、困窮度 I 群では「特に楽しいと思うときはない」「ひとりで過ごしているとき」が高かった。また、困窮度が高まるにつれ、地域の行事に参加している・塾や習い事などの割合が低くなるなど、大阪市 24 区同様、困窮度が高まるにつれて学校外の友人や習い事といった子どもにとってより広い範囲での人間関係が少なくなる傾向があり、経済的な状況が人間関係を豊かにすることを阻害している可能性がある。

悩んでいることを困窮度の視点から見ると、困窮度が高まるにつれて、「学校や勉強のこと」「進学・進路のこと」「おうちのこと」の割合が高くなり、学習面への影響が表出している。悩んでいる時の相談相手では、困窮度 I 群をみると子どもは「おじ、おばなど親戚」「クラブ活動の先生」「だれにも相談できない」がやや多い傾向にある。一方、保護者においては「相談できる相手がいない」「公的機関や役所の相談員」が多い。また、困窮度が高まるにつれて、大阪市 24 区では近隣か否かに関わらず知人や友人に相談する割合が低くなったのに対し、生野区ではこれらの割合が高い傾向にある。また、保護者の世帯構成では、父子世帯・母子世帯においては相談相手がいない割合がふたり親世帯よりも高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかについては、大阪市 24 区と比率は同程度である。地域社会に相談相手がいる保護者は、ほとんど毎日、子どもが家の手伝いをする(31.5%)、子どもが宿題や勉強をみてもらおう(14.4%)、学校の話をする(42.3%)、遊んだり体を動かす(18.9%)、社会のできごとについて話す(20.7%)、外出する(15.3%)の割合がやや高かった。地域社会との接点がある方が、よりよい家族内の関係を保てたり、学びや遊びを促進することができている。

最後に、自己効力感(セルフ・エフィカシー)に注目すると、子ども・保護者ともに困窮度による差はあまり見られない。子どもにおいては、放課後ひとりで過ごす方が、また相談相手がいない方が得点が低い。

経済的に厳しいと地域で孤立しやすくなり、閉じた関係の中にとどまりがちになる。そのことが子ども・保護者の対人関係にも影響し、子どもが世界を広げ、知的好奇心を伸ばしたり人間関係を広げたりすることが妨げられる可能性がある。



## B. 5歳児保護者調査報告書

### 1. 回答者の属性

#### 5歳児-1 続柄

問1 この調査に回答いただいている方におたずねします。お子さんとあなたの続柄について教えてください。（あてはまる番号1つに○をつけてください。）

大阪市生野区では、「お母さん」が83.7%、「お父さん」が3.6%、「おばあさん・おじいさん」が0.3%、「おじ、おばなど親戚」が0.1%、「施設職員・ファミリーホーム・里親」が0.4%、「その他の人」が0.1%、「無回答」が11.7%であった。

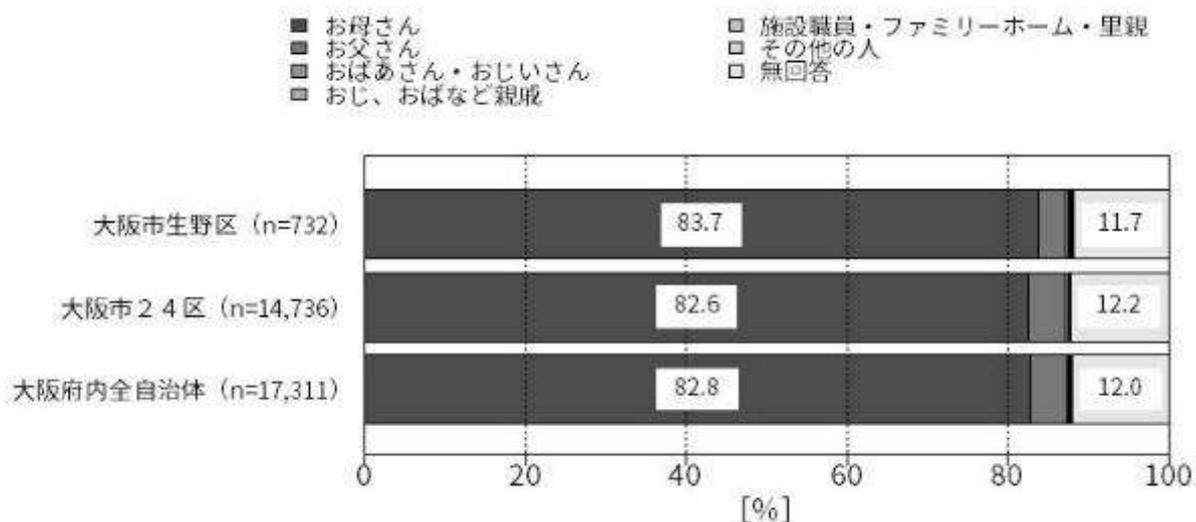


図 1. 回答者の続柄

### 2. 単純集計

#### (1) 経済状況

##### 5歳児-41-4 世帯収入額

(4) 前年(2015年)のあなたの世帯の収入の合計額は、およそいくらでしたか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

大阪市生野区では、「250～300万円未満」が8.1%、「450～500万円未満」が7.8%、「300～350万円未満」が7.7%、「350～400万円未満」が7.5%、「550～600万円未満」が7.4%の順に高くなっている。(グラフは大阪市24区・大阪府内全体のもののみ)